

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成25年5月30日

**【事業年度】** 第41期(自平成24年3月1日至平成25年2月28日)

**【会社名】** 株式会社パル

**【英訳名】** P A L C O . , L T D .

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 井上 隆太

**【本店の所在の場所】** 大阪市中央区北浜三丁目5番29号

**【電話番号】** 06 6227 0308

**【事務連絡者氏名】** 常務執行役員管理本部長 宇都宮 幸雄

**【最寄りの連絡場所】** 大阪市中央区北浜三丁目5番29号

**【電話番号】** 06 6227 0308

**【事務連絡者氏名】** 常務執行役員管理本部長 宇都宮 幸雄

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月		平成21年 2月	平成22年 2月	平成23年 2月	平成24年 2月	平成25年 2月
(1) 連結経営指標等						
売上高	(百万円)	66,461	69,879	77,395	85,360	92,479
経常利益	(百万円)	4,243	5,247	6,838	7,848	7,542
当期純利益	(百万円)	1,560	2,320	3,166	3,437	4,396
包括利益	(百万円)				3,376	4,216
純資産額	(百万円)	21,645	23,673	26,432	29,259	31,624
総資産額	(百万円)	47,664	52,383	53,479	60,392	63,435
1株当たり純資産額	(円)	1,609.34	1,790.48	2,043.65	1,156.26	1,335.25
1株当たり当期純利益	(円)	142.48	211.15	287.88	156.27	199.86
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	37.0	37.6	42.0	42.1	46.3
自己資本利益率	(%)	9.1	12.4	15.0	14.3	16.0
株価収益率	(倍)	6.9	8.9	11.2	10.4	10.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	4,871	5,043	3,998	6,018	4,274
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,356	1,152	988	598	169
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	636	1,046	2,230	1,722	2,683
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	23,007	25,851	26,630	30,326	31,750
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	1,835 (1,473)	2,067 (1,491)	1,958 (1,706)	1,981 (1,962)	2,178 (2,223)
(2) 提出会社の 経営指標等						
売上高	(百万円)	49,136	52,737	58,943	67,075	74,807
経常利益	(百万円)	3,886	5,037	6,331	7,737	7,836
当期純利益	(百万円)	1,699	2,367	3,145	3,819	3,827
資本金	(百万円)	3,181	3,181	3,181	3,181	3,181
発行済株式総数	(株)	11,568,000	11,568,000	11,568,000	11,568,000	11,568,000
純資産額	(百万円)	15,785	17,883	20,644	23,984	27,338
総資産額	(百万円)	37,782	41,454	43,019	50,250	55,056
1株当たり純資産額	(円)	1,440.88	1,626.00	1,876.98	1,090.35	1,242.84
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額)	(円)	30.00 ( )	35.00 ( )	45.00 ( )	60.00 ( )	100.00 ( )
1株当たり当期純利益	(円)	155.16	215.43	286.02	173.64	174.00
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	41.8	43.1	48.0	47.7	49.7
自己資本利益率	(%)	11.2	14.1	16.3	17.1	14.9
株価収益率	(倍)	6.3	8.7	11.3	9.4	12.0
配当性向	(%)	19.3	16.2	15.7	17.3	28.7
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	1,267 (1,223)	1,373 (1,240)	1,352 (1,385)	1,406 (1,672)	1,614 (1,911)

(注) 1 売上高及び連結売上高には消費税等は含まれておりません。

2 平成21年2月期及び平成22年2月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

また、平成23年2月期、平成24年2月期及び平成25年2月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第41期より金額の表示を千円単位から百万円単位に変更しております。なお、比較を容易にするため第40期以前についても百万円単位で表示しております。

4 第41期より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び

「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。第40期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

## 2 【沿革】

- 昭和48年10月 株式会社スコッチ洋服店のカジュアル部門を分離し、株式会社パルを設立。大阪市中央区に本社を設置。大阪府堺市のダイエー中百舌鳥店にてジーンズショップ「パル青山」の営業を開始。
- 昭和50年4月 ジーンズショップ2号店「パル茨木店」を大阪府茨木市に出店。
- 昭和55年3月 ジーンズショップ「パル青山須磨店」(神戸市須磨区)・「パル高槻店」(大阪府高槻市)・「パル堺東店」(大阪府堺市)等の出店により郊外型店舗の基盤確立。
- 昭和56年5月 イタリア系インポートショップの店舗展開を事業目的に英・インターナショナル株式会社(現・連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。(平成11年1月に3店舗の営業を当社へ移管し休眠)
- 昭和56年11月 トレンドショップ「フレーバー」を大阪市北区の梅田エスト1番館に出店。都心型店舗の出店開始。
- 昭和57年3月 衣料品小売の一部門として株式会社アンジェ(現 株式会社アッカ、現・連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。(平成元年2月に9店舗の営業を当社へ移管し休眠)
- 昭和59年11月 衣料品小売の一部門として株式会社ピー・エム・ピー(平成10年8月に㈱クリップに商号変更、現 株式会社P.M.フロンティア 現・連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。
- 昭和60年9月 アクセサリーショップ「パルコレクション」を大阪市北区の阪急梅田三番街に出店。
- 昭和63年6月 トレンドショップ「アレグロピバーチェ」を東京都渋谷区の渋谷パルコに出店。東京進出開始。
- 昭和63年6月 ユニセックス業態のカジュアルセレクトショップ「CIAOPANIC」を大阪市中央区のなんばCITY南館に出店。
- 平成3年4月 フレンチカジュアル業態のタウン系カジュアルショップ「DOUDOU」を大阪市北区のGARE大阪に出店。
- 平成5年8月 ユニセックス業態のトレンド系セレクトショップ「MYSTIC」を大阪市北区のGARE大阪に出店。
- 平成6年4月 300円ショップ「3 COINS」を大阪市北区茶屋町に出店。雑貨事業の出店開始。
- 平成7年3月 タウンカジュアル業態のモード系インポートセレクトショップ「LUIS」を大阪市北区のGARE大阪に出店。
- 平成8年4月 株式会社アンジェを株式会社アッカ(現・連結子会社)に商号変更し、衣料品の企画製造卸事業を開始。
- 平成9年2月 ユーズド業態「CIAOPANICUSED」を大阪市天王寺区の天王寺MIOに出店。
- 平成11年3月 アウトレット業態「パルオールスターズ」を大阪市住之江区のATCマーレに出店。
- 平成11年6月 ユーズド商品供給を目的として、オレゴン州ポートランドにUSA事務所を設立。
- 平成12年2月 インターネットによる衣料及び雑貨の通信販売業として、株式会社インヴォークモード(現・連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。
- 平成14年6月 株式会社ナイスクラブに資本参加(現・連結子会社)。
- 平成14年11月 株式会社パル・リテイルシステムズ・サービス(連結子会社)を設立。
- 平成15年4月 英・インターナショナル株式会社(現・連結子会社)が事業を再開。
- 平成16年2月 株式会社シェトワ(連結子会社)の株式を100%取得。
- 平成16年4月 株式会社マグスタイル(現・連結子会社)を設立。
- 平成17年9月 株式会社ナイスクラブ(現・連結子会社)の株式を追加取得。
- 平成18年3月 株式会社東洋産業商会(連結子会社)の株式を100%取得。
- 平成18年3月 株式会社シェトワ(連結子会社)を吸収合併。
- 平成19年1月 株式会社クレセントスタッフ(現・連結子会社)の株式を100%取得。
- 平成19年3月 株式会社THREADに資本参加(現・連結子会社)。
- 平成19年5月 株式会社クリップを株式会社P.M.フロンティア(現・連結子会社)に商号変更し、店舗開発事業を開始。
- 平成19年9月 株式会社パル・リテイルシステムズ・サービス(連結子会社)を吸収合併。
- 平成21年7月 株式会社バレー(現・連結子会社)を設立。
- 平成23年3月 株式会社フリーゲート白浜を設立。
- 平成23年5月 株式会社ブランミューデイズ(現・連結子会社)の株式を100%取得。
- 平成24年9月 株式会社東洋産業商会(連結子会社)を吸収合併。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社11社、関連会社5社及び非連結子会社1社にて構成されており、一般消費者を対象とした店頭での衣料の販売を主な事業の内容とし、更に雑貨の販売及びその他の事業を展開しております。

当社グループの事業内容及び主なグループ各社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

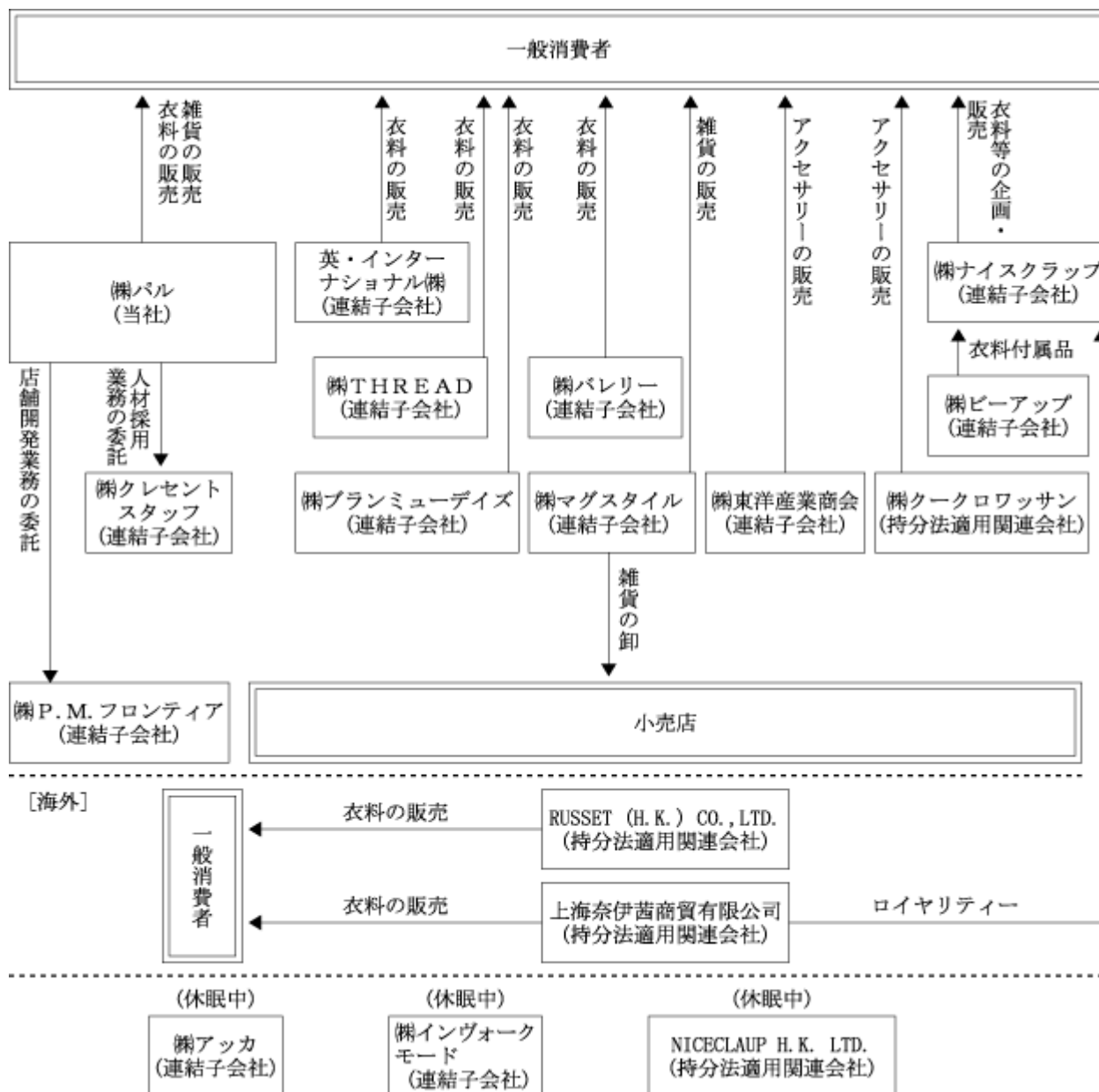
なお、当該区分は「第5 経理の状況（セグメント情報等）」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。

(衣料事業)

衣料事業は、「常に新しいファッションライフの提案を通じて社会に貢献する」の社是のもと、移り変わるファッションのトレンドを的確に捉え、多様なコンセプトの業態を開発しています。フレンチカジュアル業態には、郊外型トレンドショップの「パル」、ユニセックス業態には、カジュアルセレクトショップの「CIAOPANIC」、タウンカジュアル業態には、インポートセレクトショップの「LUIS」、アウトレット業態の「パルオールスターズ」、ナイスクラブ等があります。

(雑貨事業)

雑貨事業は、100円ショップ等の均一価格ショップが広がりを見せる中、価格帯を300円および1,000円に設定して、それらとの差別化を図り、よりファッション性を高めた雑貨を販売する「3COINS」、「サリュ」を展開しています。連結子会社㈱マグスタイルにより、生活関連雑貨の卸売、小売を行っております。



- (注) 1 持分法適用関連会社NICECLAUP H.K. LTD.は、平成20年9月より営業を休止しています。  
2 連結子会社㈱アッカは、平成22年3月より営業を休止しています。  
3 連結子会社㈱インヴォークモードは、平成23年1月より営業を休止しています。  
4 連結子会社㈱東洋産業商会は平成24年9月1日付けで当社に吸収合併されました。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) 英・インター ナショナル(株)	大阪市中央区	30	衣 料	100.0		役員の兼任...有
(株)アッカ	大阪市中央区	20	その他	100.0		役員の兼任...有
(株)P.M.フロンティア	大阪市中央区	20	その他	100.0		役員の兼任...有
(株)インヴォークモード	大阪市中央区	30	その他	100.0		役員の兼任...有
(株)マグスタイル	東京都渋谷区	50	雑 貨	100.0 (40.0)		役員の兼任...有
(株)ナイスクラップ	注3, 4,5 東京都渋谷区	768	衣 料	62.1		業務提携 役員の兼任...有
(株)ビーアップ	東京都新宿区	20	衣 料	70.0 (70.0)		役員の兼任...有
(株)クレセントスタッフ	東京都港区	80	その他	100.0		役員の兼任...有
(株)T H R E A D	大阪市中央区	50	衣 料	100.0		役員の兼任...有
(株)バレリー	大阪市中央区	50	衣 料	80.0		役員の兼任...有
(株)ブランムーデイズ	東京都渋谷区	50	衣 料	100.0 (100.0)		役員の兼任...有
(持分法適用関連会社)						
(株)クークロワッサン	東京都中央区	52	雑 貨	31.3		
NICECLAUP H.K. LTD.	HONG KONG	78千 香港ドル	衣 料	30.0 (30.0)		役員の兼任...有
RUSSET (H.K.) CO.,LTD	HONG KONG	1,000千 香港ドル	衣 料	40.0		役員の兼任...有
上海奈伊茜商貿有限公 司	中国 上海市	2,900千 人民幣	衣 料	37.9 (37.9)		役員の兼任...有

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。

3 特定子会社であります。

4 有価証券報告書の提出会社であります。

5 (株)ナイスクラップについては、売上高(連結会社相互間の売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、有価証券報告書の提出会社であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成25年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
衣料事業	1,775(1,351)
雑貨事業	290( 862)
その他	17( 1)
事務管理	96( 9)
合計	2,178(2,223)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成25年2月28日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,614	28.5	3.6	4,100

セグメントの名称	従業員数(名)
衣料事業	1,278(1,081)
雑貨事業	254( 822)
事務管理	82( 8)
合計	1,614(1,911)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災復興に関連した需要等により緩やかに回復しつつあるものの、欧州の債務問題等依然として先行きは不透明な状況にあります。

衣料小売業界におきましても、政権交代によるデフレ脱却への期待が高まる一方で、所得が伸びない中での物価上昇懸念などから、消費意欲は依然として低水準にとどまり、全般に低調に推移しました。

このような状況の中、当企業集団は業態の確立と出店の促進とを積極的に行うとともに、業態変更による既存店の活性化と不採算店舗の撤退とを推し進め、業容の拡大と経営効率の改善に努めてまいりました。

衣料事業におきましては、上記のような国内経済環境など、顧客の購買意欲が依然として低い水準にとどまっている中、連結子会社の(株)ナイスクラップが前年比10.4%減収となるなど苦戦しましたが、積極的なブランドプロモーションを展開するとともに、52週MDの精緻化に努め、機動的な商品投入によって店頭商品の鮮度を向上させるなどしたほか、出店を60店舗行うなどした結果、売上高は前年比6.0%増加の74,190百万円となりました。

雑貨事業におきましては、知名度向上による旺盛な出店要請に呼応して23店舗出店するなどした結果、売上高は前年比19.2%増加の18,098百万円と、引き続き順調に拡大しました。

以上の結果、当連結会計年度における当企業集団の売上高は前年比8.3%増加の 92,479百万円となりました。

利益面につきましては、52週MDの精緻化による在庫コントロールを推し進めましたものの、売上高総利益率は前年比0.2ポイント減少し、56.5%となりました。また、販売費及び一般管理費についても、売上高人件費率は前年比0.2ポイント増加したことなどにより、売上高販売費及び一般管理費率は前年比0.8ポイント増加し48.4%となりました。これらの結果、営業利益は前年比3.3%減少の7,549百万円となり、経常利益は、前期比3.9%減少の7,542百万円となりました。特別利益につきましては、(株)ナイスクラップの自社株式取得に伴う負ののれん発生益452百万円を計上しました。特別損失は、当連結会計年度に42店舗を撤退し、8店舗業態変更をするなどによる固定資産除却損277百万円を計上するとともに、減損損失を231百万円を計上するなど特別損失を合計575百万円計上しました。この結果、当期純利益は、前年比27.9%増加の4,396百万円となりました。



セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

(衣料事業)

売上高につきましては、ほとんどの業態が順調に伸張した結果、前年比6.0%増の74,190百万円となり、セグメント利益は前年比2.9%減の5,687百万円となりました。

(雑貨事業)

売上高につきましては、前年比19.2%増の18,098百万円となり、セグメント利益は前年比5.1%減の1,859百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動により取得した資金が4,274百万円となる等により、前連結会計年度末に比べ1,423百万円（4.7%）増加し、31,750百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

前連結会計年度におきましては、営業活動の結果取得した資金は6,018百万円でありましたが、当連結会計年度は、たな卸資産の増加及び税金等調整前当期純利益の増加等により、営業活動の結果取得した資金は、4,274百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

前連結会計年度におきましては、投資活動の結果使用した資金は598百万円でありましたが、当連結会計年度は、保険積立金の解約による収入が963百万円ありましたが、保証金の差入と返還による純支出が606百万円があったこと等により、投資活動により使用した資金は169百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

前連結会計年度におきましては、財務活動の結果使用した資金は1,722百万円でありましたが、当連結会計年度は、配当金の支払額が660百万円、割賦債務の返済による支出が1,441百万円、子会社の自己株式の取得による支出が686百万円あったこと等により、財務活動により使用した資金は2,683百万円となりました。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 仕入実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
衣料事業	32,689	106.5
雑貨事業	8,763	131.1
その他	132	106.2
合計	41,584	110.9

(注) 金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 販売実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
衣料事業	74,190	106.0
雑貨事業	18,098	119.2
その他	190	113.3
合計	92,479	108.3

(注) 金額には、消費税等は含まれておりません。

## 3 【対処すべき課題】

当社グループは、生産のグローバル化による高感度・高粗利益率商品の供給を推進することにより、価格訴求力と収益力とを同時に追求することを目指すとともに、人員配置・店舗運営の効率化を推進し、経営資源の最適配置を図るよう努めてまいります。顧客満足度(CS)向上のため全社的な運動を展開し、お客様のご支持をいただけるよう努めてまいります。

また、「超一流になろう」をテーマに約50ある各ブランドが各々のコンセプトに応じたターゲットを設定、売上・利益等の営業効率の更なる向上はもとより、ブランドイメージやCSにおいても「超一流」になることを目標とし、種々の施策を行います。

以上の施策を推進することで経営基盤の拡充を図り、安定的な成長を目指していく所存であります。

#### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

##### (1) ファッション動向の変化について

一般に、ファッション動向は常に変化する流行に左右されることから、当社グループが属するファッション衣料業界におきましては、業績に対する流行の影響を排除することは困難であります。また、主要顧客である若年層向のマーケットにおける同業他社との競争は熾烈であります。

当社グループでは、複数のブランドを持つことにより広範囲のファッションをカバーし、また、一週間単位で事業部毎に各店責任者が集まり、販売動向、在庫動向等の検証を行なう等、流行に即した商品企画および仕入に努めております。

##### (2) 出店政策について

###### テナント出店について

当社グループは、主として駅ビルや商業施設等にテナントとして出店しております。これは集客力を有する駅ビル等に出店することで販売力を確保すること、周辺環境や人の流れの変化に迅速に対応し出退店によるスクラップアンドビルドを行う際に過剰な固定資産や設備の保有を極力避けることを目的とするものであります。

当社グループは、今後もストアブランドを保ちながら、駅ビルや商業施設等へのテナント店舗を中心に積極的な出店を進めていく方針であります。

また、出店先の選定にあたり、賃借料、商圈人口、特に衣料品に関しては主要顧客である若者に魅力ある出店先であるかどうか等を総合的に勘案することで、効率的な店舗展開を図っております。当社グループにとって魅力的な出店先が十分に確保できない場合には出店数を縮小する可能性があるほか、店舗の出店数、出店場所、出店時期等により、当社グループの業績は影響を受ける可能性があります。

さらに、テナント店舗の出店にあたり店舗賃借のための保証金の差し入れを行っているため、平成25年2月末時点において保証金が総資産の17.5%を占めております。当社グループは大手デベロッパーへの出店がほとんどであります。倒産その他賃貸人の事由により保証金の全部または一部が回収できない可能性があります。

###### スクラップアンドビルドに伴う費用について

当社グループは、ファッショントレンドの変化を迅速かつ正確に読み取り新しい業態を開発する一方、時流に合わなくなった古い業態は積極的に見直しております。一般に小売業界におきましては開店後の経過等により既存店舗の売上は減少する傾向にあることから、当社グループでは新規出店に加えて、既存店舗におきましても商品構成の見直し、業態変更、必要な場合は退店を行う等、スクラップアンドビルドを積極的に行うことで店舗全体の活性化を図っております。当社グループでは、このような事業再構築のための費用が、いわば必要経費的に発生するものと認識しております。

##### (3) 顧客情報の管理について

当社グループでは、顧客情報の管理には細心の注意を払っておりますが、顧客情報の外部漏洩事件が発生した場合には、当社グループの信用力が低下する等により、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表作成にあたって、見積りが必要となる事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高及び売上総利益

売上高は前年比8.3%増加の92,479百万円となりました。売上高の詳細については、「1 業績等の概要 (1) 業績」及び「2 生産、受注及び販売の状況」をご参照ください。

差引売上総利益は前年比7.9%増加の52,264百万円となりました。

販売費及び一般管理費、営業利益、経常利益

販売費及び一般管理費については、売上高人件費率が前年比0.2ポイント増加したことなどにより、売上高販売費及び一般管理費率は前年比0.8ポイント増加し、44,715百万円となりました。

営業利益は前年比3.3%減少の7,549百万円となり、経常利益は前年比3.9%減少の7,542百万円となりました。

特別損益

特別利益につきましては、㈱ナイスクラップの自社株式取得に伴う負ののれん発生益452百万円を計上しました。特別損失は、当連結会計年度に42店舗を撤退し、8店舗業態変更をするなどによる固定資産除却損277百万円を計上するとともに、減損損失を231百万円を計上するなど特別損失を合計575百万円計上しました。

当期純利益

当期純利益は、前年比27.9%増加の4,396百万円となりました。

(3) 当連結会計年度の財政状態の分析

資産

流動資産は、現金及び預金が1,395百万円、商品が1,363百万円それぞれ増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて2,991百万円増加しました。

固定資産は、保険積立金が946百万円減少しましたが、差入保証金が607百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて51百万円増加しました。

負債

流動負債は、未払法人税等が624百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が939百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて342百万円増加しました。

固定負債は、長期未払金が359百万円減少しましたが、長期借入金が531百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて336百万円増加しました。

純資産

純資産は、少数株主持分が1,573百万円減少しましたが、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べて2,364百万円増加しました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。また、キャッシュ・フロー指標のトレンドは、以下のとおりであります。

	平成22年2月期	平成23年2月期	平成24年2月期	平成25年2月期
自己資本比率(%)	37.6	42.0	42.1	46.3
時価ベースの自己資本比率(%)	39.3	66.4	59.5	72.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	173.6	210.4	140.6	213.3
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	34.1	45.0	74.0	44.8

- (注) 1 自己資本比率 : 自己資本 / 総資産  
 2 時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額 / 総資産  
 3 キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー  
 4 インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー / 利払い  
 5 各指標はいずれも連結ベースの財務数値により算出しております。  
 6 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

運転資金

運転資金は、主に営業活動による現金収入によっており、多額の借入等の外部からの資金調達に頼らずに運転が可能となっております。

出店に伴う投資等

一般にテナント店舗の出店にあたり店舗賃借のための保証金の差入が必要ですが、当社および一部の連結子会社は当該保証金を借入金により調達する方針をとっており、また、一部の連結子会社は自己資金で保証金の差入を行う方針をとっております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、総額2,230百万円であり、その主なものは、店舗内装設備等であり  
ます。

セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(衣料事業)

設備投資額は1,761百万円であり、その主なものは、店舗内装設備等であります。

(雑貨事業)

設備投資額468百万円であり、その主なものは、店舗内装設備等であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

平成25年2月28日現在における各事業所の設備の状況、投下資本ならびに従業員の配置状況は次のと  
りであります。

(1) 提出会社

事業所名 (セグメント)	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	期末 店舗数 (店)
		建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他有形 固定資産	保証金	合計		
大阪府	店舗設備等	576	-	87	1,772	2,436	298 (221)	71
東京都	店舗設備等	942	-	204	1,724	2,871	421 (229)	102
その他	店舗設備等	2,079	212 (288)	381	3,309	5,983	559 (631)	212
衣料事業計	店舗設備等	3,598	212 (288)	673	6,806	11,290	1,278 (1,081)	385
大阪府	店舗設備等	154	-	28	508	692	85 (146)	24
東京都	店舗設備等	199	-	37	297	534	49 (162)	23
その他	店舗設備等	640	103 (152)	107	1,293	2,144	120 (514)	79
雑貨事業計	店舗設備等	994	103 (152)	173	2,100	3,371	254 (822)	126
事務管理		91	628 (5,349)	61	216	998	82 (8)	-
合計		4,684	943 (5,790)	908	9,123	15,659	1,614 (1,911)	511

(2) 国内子会社

平成25年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	期末 店舗数 (店)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他 有形 固定資産	保証金	合計		
英・インター ナショナル㈱	本社 (大阪市中央区)	衣料	店舗	114	-	15	100	230	55 (34)	18
㈱P.M.フロン ティア	本社 (大阪市中央区)	その他		-	-	-	-	-	11 (-)	-
㈱マグスタイル	本社 (東京都渋谷区)	雑貨	店舗	53	-	37	113	204	38 (40)	12
㈱ナイスクラッ プ	本社 (東京都渋谷区)	衣料	店舗	292	66 (148)	55	1,344	1,759	335 (156)	111
㈱ピーアップ	本社 (東京都新宿区)	衣料	事務所	-	-	0	0	0	1 (5)	-
㈱クレセント スタッフ	本社 (東京都港区)	その他	事務所	3	-	0	0	3	6 (1)	-
㈱THRE A D	本社 (大阪市中央区)	衣料	店舗	8	-	-	7	16	- (-)	-
㈱バレリー	本社 (大阪市中央区)	衣料	店舗	175	-	11	336	523	106 (53)	34
㈱ブランミュー デイズ	本社 (東京都渋谷区)	衣料	店舗	52	-	-	78	131	12 (23)	7
合計				702	66 (148)	119	1,981	2,869	564 (312)	182

- (注) 1 各資産の金額は帳簿価額であり、建設仮勘定を含んでおります。  
2 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(年間平均人員)は( )内に外書しております。  
3 主要な建物を賃借しております。  
4 提出会社のリース契約による主な賃借設備は次のとおりであります。

名称	台数等	リース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
電子計算機一式		5	115	278
店舗内装設備	192店舗分	5	113	162

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

平成25年2月28日現在における重要な設備の新設等の計画は次のとおりであります。

会社名	事業所名 (仮称)	所在地	セグメン トの名称	設備の内 容	投資予定額(百万円)		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月
					総額	既支払額			
提出会社	ピアズリーニ子 玉川店ほか 計60 店	-	衣料	店舗	1,534	-	自己資金	平成25年3月	平成25年8月
	3coinsららぼー と横浜店ほか計 28店	-	雑貨	店舗	687	-	自己資金	平成25年3月	平成26年2月
㈱ナイスクラッ プ	ROLICK原宿店ほ か計18店	-	衣料	店舗	280	52	自己資金	平成25年2月	平成26年3月

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	43,200,000
計	43,200,000

(注) 平成25年1月7日開催の取締役会決議により、平成25年3月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は43,200,000株増加し、86,400,000株となっております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年5月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,568,000	23,136,000	東京証券取引所 (市場第一部)	(注)
計	11,568,000	23,136,000		

(注) 平成25年1月7日開催の取締役会決議により、平成25年3月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行済株式数は11,568,000株増加し、23,136,000株となっており、単元株式数は50株から100株に変更されています。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年3月1日 (注)	1,928,000	11,568,000		3,181		3,379

(注) 1 平成19年3月1日に、平成19年2月28日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主に対し、所有普通株式1株につき1.2株の割合をもって株式分割いたしました。

2 平成25年1月7日開催の取締役会決議により、平成25年3月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行済株式数は11,568,000株増加し、23,136,000株となっております。



(6) 【所有者別状況】

平成25年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数50株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	27	17	35	135	1	3,976	4,191	
所有株式数(単元)	-	40,462	1,997	72,335	49,162	30	66,240	230,226	56,700
所有株式数の割合(%)	-	17.58	0.87	31.42	21.35	0.01	28.77	100.00	

- (注) 1 自己株式569,661株は、「個人その他」に11,393単元、「単元未満株式の状況」に11株含まれております。  
2 上記「その他の法人」の欄には証券保管振替機構名義の株式が9単元、また、「単元未満株式の状況」欄には証券保管振替機構名義の株式が7株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社スコッチ洋服店	大阪市中央区今橋4丁目1-3	3,517,730	30.40
井上隆太	大阪府豊中市	1,073,334	9.27
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	82 DEVONSHIRE ST BOSTON MASSACHUSETTS 02109360582	810,000	7.00
井上英代	大阪府吹田市	460,496	3.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	414,550	3.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	389,850	3.37
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	286,512	2.47
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	261,360	2.25
井上英隆	大阪府吹田市	258,518	2.23
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OMO4	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA	164,366	1.42
計		7,636,716	66.01

- (注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 414,550株  
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 389,850株  
2 上記のほか当社所有の自己株式569,661株(4.92%)があります。  
3 フィデリティ投信株式会社及びその共同保有者から大量保有報告書の変更報告書の提出があり(報告義務発生日平成24年7月23日)、次のとおり株式を所有している旨報告を受けておりますが、当期末現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮しておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門4丁目3-1 城山トラストタワー	470,850	4.07
エフエムアール エルエルシー(FMR LLC)	米国 02109 マサチューセッツ州ボストン、デヴォンシャー・ストリート82	912,100	7.88
合計		1,382,950	11.95

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 569,650		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,941,650	218,833	
単元未満株式	普通株式 56,700		
発行済株式総数	11,568,000		
総株主の議決権		218,833	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ450株(議決権9個)及び7株含まれております。
- 2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式11株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社パル	大阪市中央区北浜三丁目 5番29号	569,650		569,650	4.92
計		569,650		569,650	4.92

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	97	0
当期間における取得自己株式	128	0

(注) 1 当期間における取得自己株式には、平成25年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

2 平成25年1月7日開催の取締役会決議により、平成25年3月1日付で株式分割を実施しております。そのため、当期間における取得自己株式については、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求による譲渡)	30	0		
保有自己株式数	569,661		1,139,450	

(注) 1 当期間における取得自己株式及び保有自己株式数には、平成25年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含めておりません。

2 平成25年1月7日開催の取締役会決議により、平成25年3月1日付で株式分割を実施しております。そのため、当期間における保有自己株式については、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

### 3 【配当政策】

当社は、業績に対応した配当を行うことを基本とし、併せて安定的な配当の維持継続に留意するとともに、企業体質の一層の強化と今後の積極的な事業展開に備えて内部留保の充実も勘案して決定しております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決議機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

第41期(平成25年2月期)の利益配当金につきましては、これらを勘案し、1株当たり年間配当を前期に比べ40円増の普通配当100円といたしました。この結果、第41期の配当性向は28.7%(前期配当性向17.3%)となっております。

内部留保金につきましては、今後の事業展開に向けた財務体質の強化、経営基盤の確保等に活用し、事業の拡大に努めてまいり所存であります。

当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めています。

また、当社は、連結配当規制適用会社であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年5月29日 定時株主総会決議	1,099	100

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月	平成21年2月	平成22年2月	平成23年2月	平成24年2月	平成25年2月
最高(円)	2,090	2,250	3,885	3,580	4,950 2,094
最低(円)	591	915	1,799	2,060	2,908 2,036

(注) 1 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 印は、株式分割による権利落後の株価であります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月
最高(円)	4,950	4,525	4,315	4,000	4,550	4,300 2,094
最低(円)	4,055	3,710	3,685	3,610	3,855	4,035 2,036

(注) 1 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 印は、株式分割による権利落後の株価であります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長		井上英隆	昭和10年9月13日生	昭和36年9月 株式会社スコッチ洋服店設立 代表取締役社長(現任) 昭和48年10月 当社設立 代表取締役社長 昭和56年5月 英・インターナショナル株式会 社設立 代表取締役社長(現任) 昭和57年3月 株式会社アンジェ(現 株式会 社アッカ)設立 代表取締役社長 昭和59年11月 株式会社ピー・エム・ピー(現 株式会社P.M.フロンティア)設 立 代表取締役社長 平成12年2月 株式会社インヴォークモード設 立 取締役 平成15年4月 株式会社ナイスクラブ 取締役 会長(現任) 平成20年5月 当社代表取締役会長(現任) 平成21年7月 株式会社バレリー設立 代表取締 役社長 平成22年5月 株式会社バレリー 代表取締役会 長(現任)	平成25 年5月 ～平成 26年5 月	517,036
代表取締役 社長	業務推進本部長 兼業務改革推進 室長兼プロモー ション推進室長	井上隆太	昭和40年6月8日生	平成元年4月 帝人株式会社入社 平成7年5月 当社取締役 平成19年3月 当社専務取締役管理本部長兼 業務改革推進室長 平成20年5月 当社代表取締役社長(現任) 平成24年4月 株式会社ナイスクラブ 取締役 (現任)	平成25 年5月 ～平成 26年5 月	2,146,668
取締役 兼 執行役員 副社長	店舗開発本部長	松尾勇	昭和22年4月20日生	昭和40年4月 株式会社新南海ストア入社 昭和48年10月 当社入社 昭和58年3月 当社取締役 昭和60年4月 当社常務取締役 昭和63年4月 当社専務取締役 平成12年4月 当社取締役 平成19年3月 当社専務取締役 平成19年5月 株式会社P.M.フロンティア代 表取締役社長(現任) 平成21年5月 当社取締役副社長 平成25年5月 当社取締役兼執行役員副社長(現 任)	平成25 年5月 ～平成 26年5 月	34,432
取締役 兼 執行役員 副社長	内部監査室長兼 管理本部管掌	有光靖治	昭和9年4月23日生	昭和28年4月 帝人株式会社入社 昭和47年8月 株式会社ウインクル出向 取締役 管理本部長 昭和61年12月 帝人ワオ株式会社出向 取締役管 理本部長 平成6年12月 帝人セントラル興産株式会社入 社 平成10年3月 当社入社 平成10年4月 当社取締役管理本部長 平成19年3月 当社常務取締役内部監査室長 平成23年5月 当社取締役副社長内部監査室長 兼管理本部管掌 平成23年5月 当社取締役兼執行役員副社長内 部監査室長兼管理本部管掌(現 任)	平成25 年5月 ～平成 26年5 月	36,984

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 兼 専務執行 役員	営業本部長	小路 順一	昭和38年4月4日生	昭和61年3月 平成11年2月 平成13年5月 平成16年4月 平成16年4月 平成19年3月 平成24年4月 平成25年5月	当社入社 当社第3事業部リーダー 当社取締役 株式会社マグスタイル 代表取締 役社長(現任) 株式会社ナイスクラブ 取締役 当社専務取締役営業本部長兼 第三事業部長 株式会社ナイスクラブ 代表取 締役社長(現任) 当社取締役兼専務執行役員営業本 部長(現任)	平成25 年5月 ~平成 26年5 月	50,568
取締役 兼 専務執行 役員	GMD兼 開発事業部長	大谷 和正	昭和28年3月13日生	昭和45年4月 昭和55年5月 平成6年4月 平成11年4月 平成12年4月 平成19年3月 平成25年5月	株式会社メンズショップフタバ入 社 当社入社 当社取締役 当社常務取締役 当社取締役 当社専務取締役GMD兼開発事業 部長 当社取締役兼専務執行役員GMD 兼開発事業部長(現任)	平成25 年5月 ~平成 26年5 月	59,438
取締役		樋口 久幸	昭和14年8月18日生	昭和33年4月 平成2年4月 平成6年8月 平成12年5月 平成16年6月 平成20年5月 平成22年7月	株式会社住友銀行入社 同行梅田支店長 レッキス工業株式会社入社専務取 締役 当社監査役 レッキス工業株式会社取締役会長 当社取締役(現任) レッキス工業株式会社取締役相談 役(現任)	平成24 年5月 ~平成 25年5 月	
監査役	常勤	嶋尾 博光	昭和36年3月5日生	昭和59年4月 平成22年12月 平成24年11月 平成25年5月 平成25年5月	株式会社三和銀行入社(現株式会 社三菱東京UFJ銀行) MUビジネスサービス株式会社へ 出向 同社副社長 当社へ出向 当社入社 当社監査役(現任)	平成25 年5月 ~平成 29年5 月	
監査役		若杉 洋一	昭和41年8月2日生	平成6年4月 平成13年4月 平成20年5月	大江橋法律事務所入所 大江橋法律事務所社員就任(現任) 当社監査役(現任)	平成24 年5月 ~平成 28年5 月	
監査役		森本 憲昭	昭和21年10月22日生	昭和44年4月 平成14年6月 平成18年6月 平成23年5月	帝人商事株式会社入社 同社取締役 同社常勤監査役 当社監査役(現任)	平成23 年5月 ~平成 27年5 月	
計							2,845,126

- (注) 1 取締役の樋口久幸は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2 監査役の若杉洋一および森本憲昭は会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。  
3 代表取締役社長 井上隆太は、代表取締役会長 井上英隆の長男であります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### ．コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当企業集団は、コーポレート・ガバナンスを、経営環境の変化に迅速に対応し、お客様や株主などステークホルダーの皆様の期待に答える為、下記のとおり、経営の迅速性・健全性・透明性を確保することにあると理解しております。

(a)経営の迅速性 ～ 経営意思決定の迅速化

(b)経営の健全性 ～ 経営監視機能の強化、経営責任の明確化、コンプライアンス体制の充実

(c)経営の透明性 ～ 適時、適切な情報開示

##### ．当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要

当社は、監査役設置会社であり、3名の監査役で監査役会を構成しております。社外監査役は2名であります。取締役は7名で取締役会を構成しており、社外取締役は1名であります。原則として監査役及び執行役員を含む役員全員が出席する定例取締役会及び役員連絡会を、それぞれ月1回及び毎週1回（取締役会開催週を除く。）定期的に開催しております。又、役員連絡会は、経営方針その他の重要な事項について、取締役会に付議する前の事前検討会としても機能しており、審議を重ねることにより、意思決定の適正を維持・確保しております。社外役員の招聘による経営監視機能の強化の他、代表取締役社長の諮問機関として経営企画委員会等の各委員会を設け、経営方針・経営戦略に中立性・客観性を確保しております。又、取締役の責任を明確にする為、平成18年5月開催の株主総会にて定款変更を行い、取締役の任期を短縮し1年としております。また、業務執行機能の迅速化・強化のために、執行役員制度も導入しております。

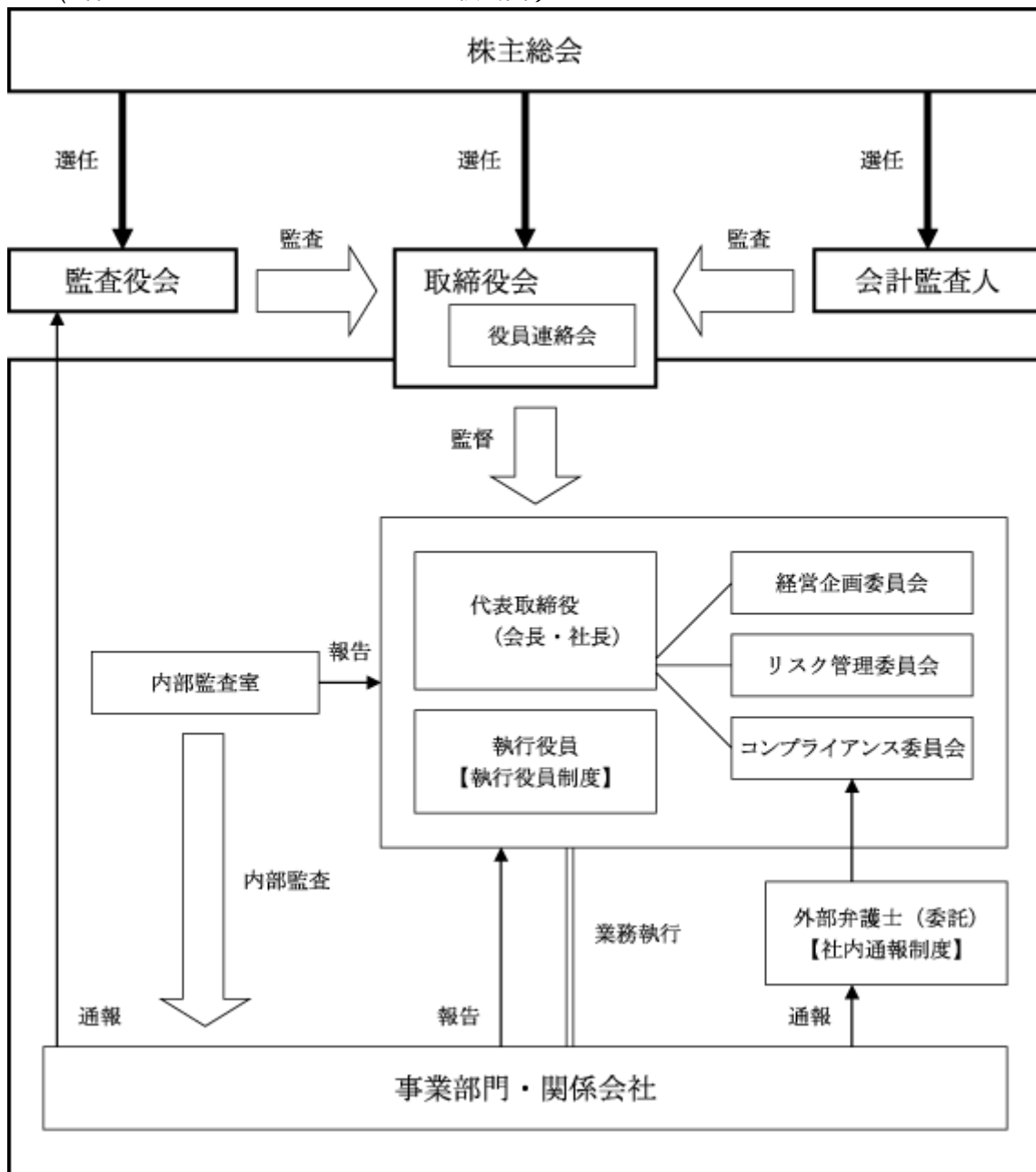
##### ．当社がコーポレート・ガバナンスを採用する理由

当社は、上記 ．に記載のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考えを実現するため、上記 ．に概要を記載のコーポレート・ガバナンスの体制を採用しており、執行役員制度の導入等により経営の迅速性を図り、監査役設置会社形態を基本に経営監視機能の強化を図るとともに各種委員会を設置し独立性のある社外取締役や社外監査役の招聘等により経営の健全性即ち経営方針・経営戦略に中立性・客観性を確保しております。また、投資者が当社への投資価値を的確に判断するために必要な会社情報を適時適切に開示する体制を構築しております。

##### （適時・適切な情報開示体制）

当企業集団は、投資者が当社への投資価値を的確に判断するために必要な会社情報を適時適切に開示することを基本姿勢として、ディスクロージャーポリシーを制定し、開示基準を明確化しております。重要な内部情報は、所定の手続きを経て、内部情報管理担当役員にて一元管理され、開示に関する役員連絡会にて開示基準に合致すると判断された重要情報は、手続き上可能な限り迅速に開示しております。

(当社のコーポレート・ガバナンスの模式図)



・内部統制システム及びリスク管理体制の整備状況

(A) 内部統制システムに対する基本的考え方

当社は、内部統制システムを、業務の有効性・効率性、コンプライアンス、財務報告の信頼性、資産保全を図り、お客様や株主その他ステークホルダーの皆様との信頼関係を深め、社会的責任を重視した経営を持続的に推進する為、その支えとなる主として下記の体制・システムと理解しております。

- a. コンプライアンス体制
- b. リスク管理体制
- c. 子会社管理体制
- d. 取締役の職務の効率性を確保するための体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制



(B)内部統制システムの整備状況

a.コンプライアンス体制

『企業行動憲章』及び『従業員行動規範』を制定・文書化し、企業文化として定着するよう全従業員への徹底を心がけております。コンプライアンス委員会の管理のもと、内部通報制度として、法律事務所と提携し内部通報ホットラインを設置しており、社員に対してその周知を図り、かつその適切な運用を維持することにより、法令違反その他のコンプライアンス上の問題の把握と解決に努めております。

b.リスク管理体制の整備状況

当社の事業内容や経理・財務状況等におけるリスクを役員及び幹部職員で構成するリスク管理委員会にて掌握し、役員、幹部職員が共有化し、部門別に管理しております。又、万一リスクが発生した場合、又はリスクの発生が予見される場合は、リスクの内容及び程度等に応じて、社長を本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等を含む外部アドバイザーチームを適切に組織する等、損害の拡大を防止しこれを最小限に止めるよう、迅速な対応を行います。

c.子会社管理体制

子会社の代表取締役は当社の取締役等を当てるものとし、取締役会が業務執行状況を監督できる体制をとるとともに、『子会社等管理規程』を制定し、関連会社を統一的に管理しております。又、子会社の役職員にも『従業員行動規範』の遵守を義務付けております。

d.取締役の職務の効率性を確保するための体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

・取締役、取締役会及び業務執行の状況

取締役会は、監査役の出席のもと、原則として毎月1回、その他必要に応じて開催し、年度計画や中期経営計画に基づく各執行ラインの活動を、その進捗状況に関する実績報告を通して、業務執行状況を監督し、経営上の重要事項を審議・決定しております。尚、経営に関する基本方針や経営上の特に重要な事項に付いては、事前に役員連絡会（定例取締役会の開催週を除き毎週1回開催しています。）にて審議を重ねた上で、取締役会に付議されます。なお、平成20年5月開催の株主総会において社外取締役を1名招聘・選任し、以降、適時適切な助言をいただいております。

業務の執行は、代表取締役社長が、取締役会の決定した基本方針に基づき、業務執行上の最高責任者として、当社の業務を統括しております。各取締役の業務の執行は、業務分掌規程、職務権限規程に基づいて行われており、役員連絡会において、各部門間の有効な連携を確保し、業務の執行に関する情報の共有と意見交換を行っております。また、執行役員制度を導入し、業務執行機能の迅速化を図っております。

・顧問弁護士

弁護士法人大江橋法律事務所と顧問契約を締結している他、内部通報制度上の通報ラインの窓口業務やその他の法的サービスを継続的に受けております。

・会議体および委員会等

\* 役員連絡会

取締役及び監査役が出席の上、経営に関する諸問題に迅速に対応するため、取締役会開催週を除き、毎週1回定期的に開催しております。又、経営方針その他の重要な事項に付いては、取締役会に付議する前の事前検討会としても機能しており、審議を重ねることにより、意思決定の適正を維持・確保しております。

\* 経営企画委員会

社長の諮問機関として、経営に関する基本方針に付いて、検討し答申致しております。

\* コンプライアンス委員会

社長の諮問機関として、コンプライアンスに関する基本方針に付いて、検討し答申致しております。

\* リスク管理委員会

社長の諮問機関として、リスク管理・危機管理に関する基本方針に付いて、検討し答申致しております。

・ 監査役、監査役会及び監査の状況

下記 . に記載のとおりであります。

e. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況

当社では、従来から、反社会的勢力とは一切の接触を持たず、反社会的勢力には毅然とした対応をすることを基本方針とし、総務部が、弁護士・警察等と緊密に連携を取りつつ対応する体制をとっております。

その方針及び取組み姿勢は、企業行動憲章、パル従業員行動規範、マニュアル等に記載し、全役職員に対し、周知徹底を図っております。また、総務部を窓口として、警察、企業防衛対策協議会等と反社会的勢力に関する情報の交換を行い、必要な情報は、イントラネット掲載、朝礼その他の会議体での連絡等を通じて、全役職員に対し、周知徹底を図っております。

その他に、当社の所定契約書には全て暴排条項を明記するとともに、契約締結手続に関する社内ルールについても改定し、反社会的勢力の排除に向けた体制整備を行っております。

内部監査及び監査役監査

・ 内部監査室及び内部監査の状況

内部監査室は、代表取締役直轄の組織として、業務執行機関から独立して設置しており、員数は3名であります。内部監査室は、策定された内部監査方針、内部監査計画に基づき、定期的に、店舗等の営業部門及び管理部門に対し、会計及び業務プロセスの監査を行い、法令や内規の遵守状況や経営活動全般の管理・運営状況を検討・評価し、監査結果を代表取締役及び取締役会に定期的に報告しております。

・ 監査役・監査役会及び監査役監査の状況

監査役制度を採用し、監査役3名のうち2名が社外監査役であります。監査役は、取締役会や役員連絡会等の重要な会議に出席し、適時適切な意見の表明又は助言を通して、もしくは監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づく業務や財産の状況の監査を通して、取締役の業務執行を監査しております。また、いつでも取締役等に対し報告を求めることができる他、代表取締役との定期的な意見交換会の場も設けております。

平成25年5月30日現在の現任の各監査役は、以下の通りの知見を有しております。

地位	名前	知見の内容
常勤監査役	嶋尾博光	銀行業務に精通しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
監査役	森本憲昭	当社が属する業界において海外取引に通じ、会社経営を経験しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
監査役	若杉洋一	弁護士として企業法務に精通しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

また、監査役は、会計監査人や内部監査室と情報を共有化しており、監査の効率化と強化に努めております。この他、監査業務に必要な場合には、外部専門家の助言を受ける機会は保証されており、補助者の配置等も要求できます。

- ・ 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係  
内部監査室、監査役及び会計監査人は、それぞれの監査計画の策定及び実施等において相互に連携する他、その監査結果の報告及び結果に対する意見交換を通して情報を共有化し、監査の効率化と強化に努めております。これらの監査に基づく結果や情報は、取締役会による執行部門への監督の内容に反映される他、代表取締役の指示を通じて内部統制に係る各管理部門（子会社管理を含む。）による業務フローの整備及びITシステムの整備等に反映されています。

#### 社外取締役及び社外監査役

- ・ 社外取締役及び社外監査役の役割は、中立・公正な立場を保持し、株主の負託を受けた独立機関として、経営の中立性・客観性の確保を担保することであると理解しております。
- ・ 社外取締役である樋口取締役につきましては、本人及び本人が現在兼任する法人等と当社及び当社代表取締役の間には、何らの人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はなく、又、本人が過去に勤務しておりました金融機関は当社のメインバンクであります。預金が借入金を大幅に超過する当社の財務状況から観て、意思決定に対して影響を与える取引関係はなく、本人も同行を退社後相当年数経過していることから、独立性を有しており、独立役員としての資格を十分有していることから、東京証券取引所に対し、独立役員として届出しております。
- ・ 社外監査役2名の内、森本監査役に付きましては、当社及び当社代表取締役との間には、何らの人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。なお、森本監査役とは、監査役就任前に一時的に（約3ヶ月弱の間）、当社の内容を十分に掌握してもらうため、小額の報酬を伴う顧問契約を締結しておりましたが、監査役就任と同時に当該顧問契約を解除しております。また、独立役員としての資格を十分有していることから、東京証券取引所に対し、独立役員として届出しております。若杉監査役につきましては、当社が継続的に法的サービスを受けております弁護士法人大江橋法律事務所の社員でありますことから、独立役員として指定してはおりませんが、当社が支払う法的サービスの対価は、当該弁護士法人の規模に比し小額であり、本人は顧問契約に含まれず且つ当社の依頼案件に関与してはおりませんので、独立性が疑われるような属性は存在しません。
- ・ 社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容  
当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針を特段設けてはおりませんが、選任にあたっては、会社法に定める社外性の要件を満たすというだけではなく、東京証券取引所の独立役員の基準等を参考にしております。
- ・ 社外役員と締結している責任限定契約の内容の概要  
当社は、社外役員と責任限定契約の締結は行っておりません。
- ・ 社外役員による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係  
社外取締役につきましては、取締役会又は役員連絡会において、内部監査、監査役監査及び会計監査等その他内部統制及びコンプライアンス等に係る重要事項の報告を受けることにより情報を共有する他、必要な場合は、意見を表明します。社外監査役につきましては、監査役の一員であり、上記  
・ に記載の通りであります。

#### 役員の報酬等

- ・ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員の員数(名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	ストックオプション	
取締役(社外取締役を除く)	610	316	289	4		14
監査役(社外監査役を除く)	2	2				1
社外役員	27	21	6			4

・提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

氏名	連結報酬等の総額 (百万円)	役員区分	会社区分	連結報酬等の種類別の額等(百万円)			
				基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金
井上 英隆	113	取締役	提出会社	67		45	0

(注) 連結報酬等の総額が1億円以上である者に限定して記載しております。

・使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

・取締役及び監査役に対する報酬等の決定方針

取締役及び監査役に対する報酬等は、当社定款第22条及び第28条において、それぞれ、株主総会の決議をもってこれを定めることとしております。狭義の報酬は、株主総会にて決議された限度額（取締役分として年額1,000百万円以内(内、社外取締役50百万円以内)、監査役分として年額100百万円以内）の範囲内で、役員の地位、責任の内容等に基づき、内規に従って、年俸額を決定し、分割月額支給しております。賞与は、業績連動しており、内規に従って、その寄与度・貢献度に応じて決定され、取締役会及び監査役の協議により各役員に支給されます。その他役員退職慰労金やストックオプション等の対価も、同様に、内規に従って、業績等への寄与度・貢献度に応じて、株主総会の決議を経て、それぞれ取締役会及び監査役の協議により各役員に支給されます。

株式の保有状況

・保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

5 銘柄（貸借対照表計上額615百万円）を保有しております。

・保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数	貸借対照表計上額	保有目的
住友不動産㈱	73,000株	135百万円	円滑な取引関係の維持
㈱三井住友フィナンシャルグループ	1,282株	3百万円	円滑な取引関係の維持
㈱みずほフィナンシャルグループ	12,000株	1百万円	円滑な取引関係の維持

みなし保有株式

該当事項はありません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数	貸借対照表計上額	保有目的
住友不動産㈱	126,000株	507百万円	円滑な取引関係の維持
㈱三井住友フィナンシャルグループ	1,282株	4百万円	円滑な取引関係の維持
㈱みずほフィナンシャルグループ	12,000株	2百万円	円滑な取引関係の維持

みなし保有株式

該当事項はありません。

・保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

## 会計監査の状況

### ・会計監査人及び会計監査の状況

当社は、有限責任 あずさ監査法人との間で、監査契約を締結しており、法律の規定に基づいた会計監査を実施しております。必要に応じて、監査役へは、監査報告・意見交換により、情報を共有化しており、監査の効率化と強化に努めております。なお、当社と当社の会計監査人若しくは監査に従事する当該監査法人の業務執行社員との間には、特別の利害関係はありません。

#### a. 業務を執行した公認会計士の氏名及び役職名並びに監査継続担当年数

氏名	役職名	継続担当年数
渡沼照夫	有限責任 あずさ監査法人 指定有限責任社員 業務執行社員	1年
横井 康	有限責任 あずさ監査法人 指定有限責任社員 業務執行社員	5年
羽津隆弘	有限責任 あずさ監査法人 指定有限責任社員 業務執行社員	4年

#### b. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 9名

その他 7名

### ・会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社の会計監査人においてその職務遂行に関する公正さの確保ができないものと合理的に疑うべき事情が判明した場合には解任又は不再任とします。

### ・会計監査人と締結している責任限定契約の内容の概要

当社は、会計監査人と責任限定契約の締結は行っていません。

### 取締役及び監査役の定数（平成25年5月30日現在）

・当社定款第17条において、当社の取締役は、20名以内とする旨を定めております。

・なお、当社定款第23条において、当社の監査役は、4名以内とする旨を定めております。

### 取締役の選任決議要件

・当社定款第18条第1項において、取締役の選任は、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定めております。

・当社定款第18条第2項において、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定めております。

### 株主総会の特別決議要件

株主総会の円滑な運営を行うため、当社定款第14条第2項において、会社法第309条第2項の規定による株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う旨を定めております。

### 取締役会決議でできる株主総会決議事項

・取締役及び監査役が職務の遂行するにあたり期待される役割を十分に発揮できる環境を整えるため、会社法第423条第1項の規定に基づき、当社定款第29条において、取締役会の決議をもって、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の当会社に対する損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定めております。

・株主への利益還元を機動的に行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、当社定款第31条第2項において、取締役会の決議により、毎年8月31日の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定めております。

・経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を実行するため、会社法第165条第2項の規定に基づき、当社定款第32条において、取締役会の決議により、市場取引等による自己株式の取得を行うことができる旨を定めております。

利益相反行為

- ・当社における、競業取引は、以下の通りです。取締役が他社（グループ内を含む）の取締役に就任の時点で抵触するか否かを取締役会で確認し、四半期毎に取締役会で取引内容、取引額の報告を受け、かつ、承認するようにしております。

取締役名	会社名	兼務先 役職名	重要事実			
			業態・取引内容	競業 取引	直接 取引	間接 取引
井上英隆	(株)スコッチ洋服店	代表取締役社長	資産管理業。店舗賃貸あり。	なし	あり	なし
井上英隆	(株)バレリー	代表取締役会長	衣料品・雑貨小売業。現状、売買なし。但、可能性あり。	あり	なし	なし
小路順一	(株)マグスタイル	代表取締役社長	衣料品小売業。現状、売買なし。但、可能性あり。	あり	なし	なし
小路順一	(株)ナイスクラップ	代表取締役社長	衣料品小売業。現状、売買なし。但、可能性あり。	あり	なし	なし

(注) 1 . 重要事実の内容

重要事実		法令上の内容	会社法該当条項
競合取引		会社の事業の部類に属する取引	会社法356条 1 項 1 号
利益相反取引	直接取引	自己又は第三者のために会社とする取引	会社法356条 1 項 2 号
	間接取引	債務保証等利益相反取引	会社法356条 1 項 3 号

2 . 100%子会社については、記載を省略しております。

3 . (株)スコッチ洋服店との店舗の賃貸借取引は、適正な賃料設定をしており、利益相反取引には、該当しません。

・会社役員又は支配株主との間の利益が相反する取引は、該当ございません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	34		37	6
連結子会社	22		23	8
合計	56		60	14

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、報酬等の額には、これらの合計額を記載しております。

【その他の重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の当社に対する非監査業務の内容】

・前連結会計年度

該当事項はありません。

・当連結会計年度

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である財務調査の業務について対価を支払って降ります。

【監査報酬の決定方針】

監査業務に係る報酬につきましては、監査法人の見積もりに基づき、当社の規模及び事業の特性、監査日数等を勘案した上で、1年ごとに、監査役会の同意を得て、適切に決定しております。また、非監査業務に係る報酬につきましては、非監査業務の内容等を勘案した上で、監査法人の見積もりに基づき、発生の都度ごとに、監査役会の同意を得て、適切に決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年3月1日から平成25年2月28日まで)及び事業年度(平成24年3月1日から平成25年2月28日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 金額の表示単位の変更について

当社の連結財務諸表及び財務諸表に掲記される科目、その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当連結会計年度及び当事業年度より百万円単位で記載することに變更いたしました。なお、比較を容易にするために、前連結会計年度及び前事業年度以前についても百万円単位に組替えて表示しております。

### 4 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等に反映できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研鑽を重ねております。



1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	31,175	32,570
受取手形及び売掛金	3,784	3,997
商品	4,067	5,431
原材料及び貯蔵品	8	8
繰延税金資産	646	542
その他	439	567
貸倒引当金	2	5
流動資産合計	40,120	43,112
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	<sup>1</sup> 9,100	<sup>1</sup> 9,624
減価償却累計額	3,876	4,244
建物及び構築物（純額）	5,223	5,379
機械装置及び運搬具	20	11
減価償却累計額	15	10
機械装置及び運搬具（純額）	5	1
土地	<sup>1</sup> 784	<sup>1</sup> 784
リース資産	1,053	1,398
減価償却累計額	251	479
リース資産（純額）	802	919
その他	265	323
減価償却累計額	204	216
その他（純額）	61	107
有形固定資産合計	6,876	7,191
無形固定資産		
その他	38	72
無形固定資産合計	38	72
投資その他の資産		
投資有価証券	<sup>2</sup> 678	<sup>2</sup> 1,034
差入保証金	<sup>1</sup> 10,463	<sup>1</sup> 11,070
繰延税金資産	763	433
その他	<sup>2</sup> 1,584	<sup>2</sup> 651
貸倒引当金	132	131
投資その他の資産合計	13,357	13,059
固定資産合計	20,271	20,322
資産合計	60,392	63,435

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,946	10,886
短期借入金	1 720	1 726
1年内返済予定の長期借入金	1 1,840	1 1,738
未払費用	1,375	1,502
未払法人税等	2,162	1,537
賞与引当金	850	828
役員賞与引当金	331	298
返品調整引当金	0	0
その他	2,655	2,705
流動負債合計	19,881	20,224
固定負債		
長期借入金	1 6,118	1 6,650
退職給付引当金	487	569
役員退職慰労引当金	113	117
長期未払金	2,561	2,202
リース債務	627	703
資産除去債務	1,144	1,211
負ののれん	74	41
繰延税金負債	30	15
その他	92	73
固定負債合計	11,250	11,586
負債合計	31,132	31,811
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,181	3,181
資本剰余金	3,379	3,379
利益剰余金	20,024	23,760
自己株式	1,143	1,143
株主資本合計	25,441	29,177
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	149
繰延ヘッジ損益	6	42
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益累計額合計	7	193
少数株主持分	3,826	2,253
純資産合計	29,259	31,624
負債純資産合計	60,392	63,435

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
売上高	85,360	92,479
売上原価	36,912	40,214
売上総利益	48,447	52,264
返品調整引当金繰入額	0	0
差引売上総利益	48,447	52,264
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	2,220	2,494
運送費及び保管費	1,936	2,131
貸倒引当金繰入額	0	2
給料手当及び賞与	11,908	13,173
賞与引当金繰入額	850	828
役員賞与引当金繰入額	331	298
退職給付引当金繰入額	124	123
役員退職慰労引当金繰入額	6	4
福利厚生費	2,021	2,244
賃借料	14,076	15,309
リース料	310	290
その他	6,851	7,813
販売費及び一般管理費合計	40,639	44,715
営業利益	7,808	7,549
営業外収益		
受取利息	7	7
受取賃貸料	21	28
持分法による投資利益	21	-
負ののれん償却額	32	32
保険解約返戻金	-	16
その他	55	49
営業外収益合計	137	134
営業外費用		
支払利息	81	95
持分法による投資損失	-	3
投資事業組合運用損	1	5
支払手数料	-	26
その他	14	10
営業外費用合計	97	141
経常利益	7,848	7,542
特別利益		
固定資産売却益	18	-
負ののれん発生益	-	452
特別利益合計	18	452

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	3 203	3 277
リース解約損	14	16
減損損失	2 267	2 231
投資有価証券評価損	29	-
関係会社株式評価損	-	50
災害義援金等	96	-
災害による損失	31	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	613	-
その他	19	-
<b>特別損失合計</b>	<b>1,276</b>	<b>575</b>
税金等調整前当期純利益	6,590	7,420
法人税、住民税及び事業税	3,487	3,128
法人税等調整額	259	288
<b>法人税等合計</b>	<b>3,227</b>	<b>3,416</b>
少数株主損益調整前当期純利益	3,362	4,003
少数株主損失( )	74	392
<b>当期純利益</b>	<b>3,437</b>	<b>4,396</b>

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
少数株主損益調整前当期純利益	3,362	4,003
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	159
繰延ヘッジ損益	6	49
持分法適用会社に対する持分相当額	0	4
その他の包括利益合計	13	213
包括利益	3,376	4,216
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,452	4,597
少数株主に係る包括利益	76	380

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	3,181	3,181
当期末残高	3,181	3,181
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	3,379	3,379
<b>当期変動額</b>		
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	-	0
当期末残高	3,379	3,379
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	17,082	20,024
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	494	659
<b>当期純利益</b>	3,437	4,396
<b>当期変動額合計</b>	2,942	3,736
当期末残高	20,024	23,760
<b>自己株式</b>		
当期首残高	1,142	1,143
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	0	0
当期末残高	1,143	1,143
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	22,499	25,441
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	494	659
<b>当期純利益</b>	3,437	4,396
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	2,942	3,736
当期末残高	25,441	29,177
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	21	0
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21	149
<b>当期変動額合計</b>	21	149
当期末残高	0	149

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	-	6
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6	49
当期変動額合計	6	49
当期末残高	6	42
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	0	0
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	2
当期変動額合計	0	2
当期末残高	0	1
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	22	7
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14	200
当期変動額合計	14	200
当期末残高	7	193
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	3,955	3,826
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	129	1,573
当期変動額合計	129	1,573
当期末残高	3,826	2,253
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	26,432	29,259
当期変動額		
剰余金の配当	494	659
当期純利益	3,437	4,396
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	114	1,372
当期変動額合計	2,827	2,364
当期末残高	29,259	31,624

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	6,590	7,420
減価償却費	1,178	1,329
減損損失	267	231
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	613	-
のれん償却額	36	-
負ののれん償却額	32	32
負ののれん発生益	-	452
貸倒引当金の増減額（は減少）	7	1
受取利息及び受取配当金	8	10
支払利息	81	95
為替差損益（は益）	1	2
持分法による投資損益（は益）	21	3
売上債権の増減額（は増加）	202	227
たな卸資産の増減額（は増加）	597	1,362
仕入債務の増減額（は減少）	888	931
賞与引当金の増減額（は減少）	115	21
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	3	4
役員賞与引当金の増減額（は減少）	58	33
退職給付引当金の増減額（は減少）	83	82
返品調整引当金の増減額（は減少）	0	0
投資有価証券評価損益（は益）	29	-
関係会社株式評価損	-	50
有形固定資産除却損	217	293
有形固定資産売却損益（は益）	18	-
投資事業組合運用損益（は益）	1	5
未払消費税等の増減額（は減少）	87	34
その他	313	240
小計	9,381	8,101
利息及び配当金の受取額	5	7
持分法適用会社からの配当金の受取額	4	4
利息の支払額	81	95
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	3,292	3,744
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,018	4,274



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	208	289
有形固定資産の売却による収入	204	-
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	99	261
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	11	108
貸付けによる支出	32	30
貸付金の回収による収入	17	13
無形固定資産の取得による支出	-	28
定期預金の増減額（は増加）	5	28
関係会社株式の取得による支出	80	-
保険積立金の解約による収入	-	963
差入保証金の差入による支出	1,341	1,020
差入保証金の回収による収入	1,023	413
子会社株式の取得による支出	10	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2 34	-
資産除去債務の履行による支出	107	67
その他	4	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>598</b>	<b>169</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	80	6
長期借入れによる収入	1,448	1,732
長期借入金の返済による支出	1,201	1,301
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	-	0
子会社の自己株式の取得による支出	-	686
配当金の支払額	495	660
少数株主への配当金の支払額	53	53
割賦債務の返済による支出	1,169	1,441
ファイナンス・リース債務の返済による支出	170	278
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,722</b>	<b>2,683</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>1</b>	<b>2</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,696	1,423
現金及び現金同等物の期首残高	26,630	30,326
現金及び現金同等物の期末残高	1 30,326	1 31,750

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 11社

連結子会社の名称

英・インターナショナル(株)

(株)アッカ

(株)P.M.フロンティア

(株)インヴォークモード

(株)マグスタイル

(株)ナイスクラブ

(株)ビーアップ

(株)クレセントスタッフ

(株)T H R E A D

(株)バレリー

(株)ブランミューデイズ

(株)東洋産業商会は、当社が平成24年9月1日付けで、吸収合併しております。

(2) 非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

(株)フリーゲート白浜

連結の範囲から除いた理由

(株)フリーゲート白浜は小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社の数 4社

持分法適用関連会社の名称

NICECLAUP H.K. LTD.

RUSSET (H.K.) CO., LTD.

(株)クークロワッサン

上海奈伊茜商貿有限公司

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社等の名称

(株)フリーゲート白浜

(有)リミックス

（持分法を適用しない理由）

持分法非適用会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用会社は決算日が相違しておりますが、RUSSET (H.K.) CO., LTD.以外の会社は当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しており、RUSSET (H.K.) CO., LTD.は、12月31日で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

(株)クレセントスタッフの決算日は12月31日、また、(株)マグスタイル、(株)ナイスクラブ、(株)ビーアップの決算日は1月31日であり、連結決算日と一致しておりません。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4 会計処理基準に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### イ 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

投資事業有限責任組合およびこれに類する組合への出資については、当該投資事業有限責任組合およびこれに類する組合の直近の決算書の当社持分割合で評価、その他については移動平均法による原価法

###### ロ デリバティブ取引により発生する債権及び債務

時価法

###### ハ たな卸資産

主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、建物(建物附属設備を除く)については定額法

###### ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

###### ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

平成21年2月28日以前に契約をした、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

###### ロ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度の負担すべき支給見込額を計上しております。

###### ハ 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度の負担すべき支給見込額を計上しております。

###### ニ 返品調整引当金

販売した製品の返品による損失に備えるため、法人税法の繰入限度額相当額を計上しております。

#### ホ 退職給付引当金

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。

#### ヘ 役員退職慰労引当金

役員の退職に備え、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

#### (4) 重要なヘッジ会計の方法

##### ヘッジ会計の方法

為替予約については、繰延ヘッジ処理によっております。

##### ヘッジ手段とヘッジ対象

（ヘッジ手段）（ヘッジ対象）

為替予約 外貨建予定取引

##### ヘッジ方針

主に商品の輸入取引にかかる為替の変動リスクをヘッジする目的で為替予約取引を利用することとしており、3年を超える長期契約は行わない方針であります。

##### ヘッジの有効性評価の方法

為替予約取引については、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつヘッジ開始時及びその後も継続して為替変動が相殺されていることを確認することにより、有効性の評価を行っております。

#### (5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。

#### (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

#### (7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

#### 【会計方針の変更】

##### （1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用）

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号 平成22年6月30日）を適用しております。

当連結会計年度の連結貸借対照表日後に株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

## 【未適用の会計基準等】

(退職給付に関する会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

### (1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

### (2) 適用予定日

平成27年2月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成28年2月期の期首より適用予定です。

### (3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

## 【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 (前連結会計年度)

建物及び構築物139百万円、土地923百万円、差入保証金7,042百万円は、長期借入金5,878百万円、1年内返済予定の長期借入金1,638百万円及び短期借入金50百万円の担保に供しております。

(当連結会計年度)

建物及び構築物55百万円、土地608百万円、差入保証金7,855百万円は、長期借入金6,072百万円、1年内返済予定の長期借入金1,836百万円及び短期借入金56百万円の担保に供しております。

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
投資有価証券(株式)	103百万円	53百万円
その他(出資金)	29百万円	34百万円

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
	237百万円	330百万円

2 減損損失

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	金額(百万円)
店舗	建物	235
	器具備品	5
	リース資産	17
	その他	10

資産を用途により事業用資産、遊休資産に分類しております。

事業用資産については、管理会計上の区分を基礎として、原則として店舗毎に個別物件単位に基づきグループ化しております。

事業用資産のうち、収益性の低下している資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)

当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	金額(百万円)
店舗	建物	201
	器具備品	2
	リース資産	12
	その他	15

資産を用途により事業用資産、遊休資産に分類しております。

事業用資産については、管理会計上の区分を基礎として、原則として店舗毎に個別物件単位に基づきグループ化しております。

事業用資産のうち、収益性の低下している資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能額を零として評価しております。

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月28日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
建物	165百万円	254百万円
その他	37 "	23 "
計	203百万円	277百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)

1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	259百万円
組替調整額	"
税効果調整前	259百万円
税効果額	99 "
その他有価証券評価差額金	159百万円

繰延ヘッジ損益

当期発生額	88百万円
組替調整額	8 "
税効果調整前	79百万円
税効果額	30 "
繰延ヘッジ損益	49百万円

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	4百万円
-------	------

その他の包括利益合計 213百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年3月1日至平成24年2月29日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	11,568			11,568

(注) 当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、上記は当該分割前の株数で記載しております。

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	569	0	-	569

(注) 当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、上記は当該分割前の株数で記載しております。

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加

0千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月26日 定時株主総会	普通株式	494	45	平成23年2月28日	平成23年5月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	659	60	平成24年2月29日	平成24年5月30日

当連結会計年度(自平成24年3月1日至平成25年2月28日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	11,568			11,568

(注) 当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、上記は当該分割前の株数で記載しております。

(変動事由の概要)

該当事項はありません。



2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	569	0	0	569

(注) 当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、上記は当該分割前の株数で記載しております。

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 0千株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買増しによる増加 0千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月29日 定時株主総会	普通株式	659	60	平成24年2月29日	平成24年5月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,099	100	平成25年2月28日	平成25年5月30日

(注) 当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、上記配当金については、当該分割前の株式数を基準に配当を実施いたします。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
現金及び預金勘定	31,175百万円	32,570百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	848百万円	820百万円
現金及び現金同等物	30,326百万円	31,750百万円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内容

(前連結会計年度)

株式の取得により新たに(株)ブランミューデイズを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	129百万円
固定資産	73百万円
のれん	26百万円
流動負債	201百万円
固定負債	13百万円
株式の取得価額	15百万円
現金及び同等物	49百万円
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得に伴う収入	34百万円

(当連結会計年度)

該当事項は、ありません。

3 重要な非資金取引の内容

(前連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上した資産除去債務の額は1,169百万円であります。

(当連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上した資産除去債務の額は104百万円であります。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(イ)有形固定資産

主として、店舗内装設備であります。

(ロ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース開始日が平成21年2月28日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
器具備品	684	502	46	134
ソフトウェア	40	15	17	8
合計	724	517	63	143

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成25年2月28日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
器具備品	394	335	18	39
ソフトウェア	11	10	-	0
合計	405	346	18	40

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
1年内	107	44
1年超	45	-
合計	153	44
リース資産減損勘定期末残高	18	3

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
支払リース料	163	111
リース資産減損勘定の取崩額	34	16
減価償却費相当額	147	100
支払利息相当額	9	4

減価償却費相当額の算定方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法は、リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

(1)金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、必要資金については概ね自己資金を充てておりますが、一部銀行借入により調達しております。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先毎に期日管理及び残高管理を行うとともに、必要に応じ取引先の信用状況を随時把握する体制としております。

投資有価証券は、取引先企業及び関連企業の株式、投資事業有限責任組合への出資金及び投資ファンド等であり、それぞれ投資先の事業リスク及び為替変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先企業、関連企業及び投資事業有限責任組合については定期的に財務状況を把握しており、投資ファンドについては随時市場価格の把握を行っております。

差入保証金は、主に店舗の出店による賃貸借契約に基づくものであり、差入先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、契約締結に際し差入先の信用状況を把握するとともに、信用状態が危惧される状況になった際には、速やかに回収を図ることに努めております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日となっております。

借入金は、全て銀行よりの借入金であり、金利の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、市場金利の動向に注視し銀行との交渉に当たっております。

デリバティブ取引は、輸入取引に係る外国為替の変動リスクをヘッジするための為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価の方法等につきましては、前述の連結財務諸表作成のための基本となる事項「4 会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」に記載のとおりであります。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2)金融商品の時価等に関する事項

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	31,175	31,175	
受取手形及び売掛金	3,784	3,784	
投資有価証券	492	492	
差入保証金	10,463	9,876	586
資産計	45,915	45,329	586
支払手形及び買掛金	9,946	9,946	
短期借入金	720	720	
長期借入金	7,958	7,958	
長期未払金	3,521	3,343	178
負債計	22,146	21,968	178
デリバティブ取引( )	(11)	(11)	

( )デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	32,570	32,570	
受取手形及び売掛金	3,997	3,997	
投資有価証券	803	803	
差入保証金	11,070	10,615	455
資産計	48,442	47,987	455
支払手形及び買掛金	10,886	10,886	
短期借入金	726	726	
長期借入金	8,389	8,389	
長期未払金	3,377	3,209	167
負債計	23,379	23,211	167
デリバティブ取引( )	68	68	

( )デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

現金及び預金、受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

市場価格または取引先金融機関から提示された価格を時価としております。

差入保証金

差入保証金の時価については、信用リスクが僅少であるため回収予定価額を回収見積り期間に対応する安全債券の利率で割引いて算出する方法によっております。

負債

支払手形及び買掛金、短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金、長期未払金

これらの時価については、固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入または割賦取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定してしております。変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額に近似していると考えられることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価については、取引金融機関から提示された価格等に基づき算定してしております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成24年2月29日	平成25年2月28日	備考
非上場株式	103	154	市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、資産「投資有価証券」には含めておりません。
投資事業組合出資金	82	77	
役員退職慰労金	289	9	支給時期が特定されていないことから、負債「長期未払金」には含めておりません。

3. 金銭債権及び有価証券のうち満期のあるものの連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	31,175			
受取手形及び売掛金	3,784			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期のあるもの(社債)			100	
その他有価証券のうち満期のあるもの(その他)		82		
差入保証金	1,880	2,790	5,746	46
合計	36,840	2,872	5,846	46

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	32,570			
受取手形及び売掛金	3,997			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期のあるもの(その他)	77			
差入保証金	2,275	2,585	6,162	46
合計	38,921	2,585	6,162	46

4. 支払手形及び買掛金、短期借入金、長期借入金及び長期未払金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
支払手形及び買掛金	9,946			
短期借入金	720			
長期借入金	1,840	5,542	576	
長期未払金	1,249	2,272		
合計	13,756	7,814	576	

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
支払手形及び買掛金	10,886			
短期借入金	726			
長期借入金	1,738	5,935	714	
長期未払金	1,183	2,193		
合計	14,535	8,129	714	

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年2月29日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	136	100	36
債券			
その他			
小計	136	100	36
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	3	6	2
債券	100	101	0
その他	250	345	94
小計	355	453	97
合計	492	553	61

- (注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。  
2 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のあるものについて29百万円減損処理を行っております。  
3 連結会計年度末日における時価が取得価額に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成25年2月28日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	510	261	248
債券			
その他			
小計	510	261	248
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	4	6	1
債券			
その他	288	337	49
小計	292	344	51
合計	803	605	197

- (注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。  
2 連結会計年度末日における時価が取得価額に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行っております。



2 連結会計年度中に売却した其他有価証券

前連結会計年度(自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式			
債券			
その他	11		
合計	11		

当連結会計年度(自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式			
債券	101		
その他	7		
合計	108		

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額のうち1年超(百万円)	時価(百万円)	当該時価の算定方法
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米国ドル	買掛金	970	485	11	取引先金融機関から提示された価格等による

当連結会計年度(自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額のうち1年超(百万円)	時価(百万円)	当該時価の算定方法
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米国ドル	買掛金	485		68	取引先金融機関から提示された価格等による

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、退職一時金制度を設けております。また、一部の連結子会社は特定退職金共済制度に加入しております。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
退職給付債務(百万円)	539	555
未認識数理計算上の差異(百万円)	52	13
退職給付引当金(百万円)	487	569

一部の連結子会社の退職給付債務の計算については簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
勤務費用(を除く)(百万円)	97	97
利息費用(百万円)	5	6
数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	21	19
合計(百万円)	124	123

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

一部の連結子会社は簡便法を採用しておりますので、基礎率等については該当ありませんが、当社および一部の連結子会社の基礎率等は以下のとおりです。

割引率

前連結会計年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
1.2% ~ 1.3%	1.2% ~ 1.3%

退職給付見込額の期間配分法

期間定額基準

数理計算上の差異の処理年数

5年(翌連結会計年度より定額処理)

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
<b>繰延税金資産(流動)</b>		
賞与引当金	337百万円	314百万円
未払事業税	174	124
法定福利費	47	46
未払事業所税	14	16
商品評価損	67	69
繰越欠損金		213
その他	16	10
繰延税金資産(流動)小計	658	795
評価性引当額	12	227
繰延税金資産(流動)合計	646	568
<b>繰延税金負債(流動)</b>		
繰延ヘッジ		25
<b>繰延税金資産(流動)純額</b>		
	646	542
<b>繰延税金資産(固定)</b>		
役員退職慰労引当金	143	45
退職給付引当金	176	204
貸倒引当金	33	52
減損損失	134	127
資産除去債務	397	430
繰越欠損金	859	665
有価証券評価損	27	27
減価償却費	56	49
その他有価証券評価差額金	23	
固定資産売却未実現損益	79	79
その他	9	25
繰延税金資産(固定)小計	1,941	1,708
評価性引当額	985	1,008
繰延税金資産(固定)合計	955	699
<b>繰延税金負債(固定)</b>		
資産除去債務に対応する除去費用	177百万円	159百万円
その他有価証券評価差額金	11	88
差額負債調整勘定		18
その他	2	
繰延税金負債(固定)合計	191	265
<b>差引繰延税金資産(固定)純額</b>		
	763	433
<b>繰延税金負債(固定)</b>		
資産除去債務に対応する除去費用		12
差額負債調整勘定	30	
その他		2
繰延税金負債(固定)合計	30	15

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
住民税均等割	2.5	2.2
役員賞与	2.2	1.6
評価性引当金増加額	1.9	3.9
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	1.5	
負ののれん発生益		2.5
その他	0.3	0.2
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	49.0	46.0

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を6年～15年と見積り、割引率は0.70%～1.80%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
期首残高(注)	1,055百万円	1,169百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	198	104
連結子会社の取得に伴う増加額	9	
時の経過による調整額	10	11
資産除去債務の履行による減少額	105	65
期末残高	1,169	1,220

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月1日)を適用したことによる残高であります。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1 報告セグメントの概要

当社グループでは、衣料品販売を主たる事業とし、雑貨販売も展開しており、それぞれ包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社グループは業態別のセグメントから構成されており、商品形態及び経済的特徴を考慮した上で集約し、「衣料事業」及び「雑貨事業」の2つを報告セグメントとしております。これらは、各々について分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

「衣料事業」は、衣料品等の小売（仕入販売）を行っております。「雑貨事業」は、日用雑貨品等の小売（仕入販売）を行っております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント内の内部収益及び振替高は市場価格に基づいております。

なお、当社では報告セグメントに資産及び負債を配分しておりません。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	衣料事業	雑貨事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	70,010	15,180	85,191	168	85,360		85,360
セグメント間の内部売上高 又は振替高				139	139	139	
計	70,010	15,180	85,191	308	85,499	139	85,360
セグメント利益又は損失 ( )	5,859	1,959	7,818	13	7,804	3	7,808
その他の項目							
減価償却費	923	153	1,076	4	1,080		1,080
のれん償却額	36		36		36		36

(注) 1. 「その他」に含まれる事業は、人材派遣業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去額3百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	衣料事業	雑貨事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	74,190	18,098	92,288	190	92,479	-	92,479
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	142	142	142	-
計	74,190	18,098	92,288	332	92,621	142	92,479
セグメント利益又は損失 ( )	5,687	1,859	7,547	4	7,551	2	7,549
その他の項目							
減価償却費	999	215	1,215	1	1,216	-	1,216

(注) 1. 「その他」に含まれる事業は、人材派遣業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去額 2百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

##### 1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

##### 2 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

##### 3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客ごとの売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

##### 1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

##### 2 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

##### 3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客ごとの売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	衣料事業	雑貨事業	計				
減損損失	258	4	262	5	267		267

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	衣料事業	雑貨事業	計				
減損損失	195	35	231	-	231	-	231

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	衣料事業	雑貨事業	計				
(のれん)							
当期償却額	36		36		36		36
当期末残高							
(負ののれん)							
当期償却額	32		32		32		32
当期末残高	74		74		74		74

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	衣料事業	雑貨事業	計				
(のれん)							
当期償却額	-	-	-	-	-	-	-
当期末残高	-	-	-	-	-	-	-
(負ののれん)							
当期償却額	32	-	32	-	32	-	32
当期末残高	41	-	41	-	41	-	41

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

当連結会計年度において、452百万円の負ののれん発生益を計上しております。これは、衣料事業において子会社が自己株式の取得を行ったことによるものです。

**【関連当事者情報】**

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
1株当たり純資産額	1,156円26銭	1,335円25銭
1株当たり当期純利益	156円27銭	199円86銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 当社は、平成25年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

## (会計方針の変更)

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。この適用により、連結貸借対照表日後に行った株式分割は、前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前連結会計年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額は、以下のとおりです。

1株当たり純資産額	2,312円52銭
1株当たり当期純利益金額	312円53銭

## 3 算定上の基礎

## (1) 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(百万円)	29,259	31,624
普通株式に係る純資産額(百万円)	25,433	29,371
差額の主な内訳(百万円)		
少数株主持分	3,826	2,253
普通株式の発行済株式数(株)	23,136,000	23,136,000
普通株式の自己株式数(株)	1,139,188	1,139,322
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	21,996,812	21,996,678

## (2) 1株当たり当期純利益

項目	前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
連結損益計算書上の当期純利益(百万円)	3,437	4,396
普通株式に係る当期純利益(百万円)	3,437	4,396
普通株式の期中平均株式数(株)	21,996,978	21,996,804

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	720	726	1.7	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,840	1,738	0.9	
1年以内に返済予定のリース債務	222	296	3.0	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	6,118	6,650	0.9	平成26年～平成32年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	627	703	3.0	平成26年～平成30年
その他有利子負債				
合計	9,528	10,116		

- (注) 1 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,598	1,898	659	779
リース債務	279	231	150	42

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	21,487	43,714	66,916	92,479
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,969	3,175	5,437	7,420
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,102	1,779	3,285	4,396
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	50.14	80.90	149.37	199.86

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	50.14	30.77	68.47	50.50

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,502	27,092
売掛金	2,631	2,947
商品	3,009	4,505
前渡金	79	82
前払費用	190	195
繰延税金資産	569	551
その他	375	560
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	32,357	35,934
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 7,049	1 7,511
減価償却累計額	2,526	2,826
建物（純額）	4,522	4,684
車両運搬具	9	9
減価償却累計額	8	8
車両運搬具（純額）	1	0
工具、器具及び備品	19	30
減価償却累計額	12	17
工具、器具及び備品（純額）	6	13
土地	1 943	1 943
リース資産	1,008	1,357
減価償却累計額	238	463
リース資産（純額）	770	893
有形固定資産合計	6,244	6,536
無形固定資産		
商標権	4	2
電話加入権	17	17
リース資産	2	15
無形固定資産合計	23	35
投資その他の資産		
投資有価証券	241	615
関係会社株式	1,998	1,948
破産更生債権等	11	-
長期前払費用	223	272
差入保証金	1 8,522	1 9,123
保険積立金	95	95
繰延税金資産	524	476

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
その他	70	70
貸倒引当金	63	52
投資その他の資産合計	11,624	12,550
固定資産合計	17,892	19,121
資産合計	50,250	55,056
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,655	1,520
買掛金	6,670	7,859
1年内返済予定の長期借入金	1,631	1,587
未払金	510	570
1年内支払予定の長期未払金	1,151	1,102
未払費用	1,182	1,301
リース債務	212	286
未払法人税等	2,084	1,466
未払消費税等	181	202
預り金	27	39
賞与引当金	779	735
役員賞与引当金	329	296
関係会社整理損失引当金	-	286
資産除去債務	3	9
その他	31	28
流動負債合計	16,450	17,292
固定負債		
長期借入金	5,864	6,389
退職給付引当金	232	292
役員退職慰労引当金	113	117
長期未払金	2,058	1,968
リース債務	599	683
資産除去債務	849	891
その他	97	82
固定負債合計	9,816	10,426
負債合計	26,266	27,718

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,181	3,181
資本剰余金		
資本準備金	3,379	3,379
その他資本剰余金	-	0
資本剰余金合計	3,379	3,379
利益剰余金		
利益準備金	21	21
その他利益剰余金		
別途積立金	12,600	12,600
繰越利益剰余金	5,930	9,098
利益剰余金合計	18,552	21,719
自己株式	1,143	1,143
株主資本合計	23,969	27,136
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21	159
繰延ヘッジ損益	6	42
評価・換算差額等合計	14	201
純資産合計	23,984	27,338
負債純資産合計	50,250	55,056

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
売上高	67,075	74,807
売上原価		
商品期首たな卸高	2,492	3,009
当期商品仕入高	29,118	33,405
合計	31,611	36,415
商品期末たな卸高	<sup>1</sup> 3,009	<sup>1</sup> 4,505
売上原価合計	28,602	31,910
売上総利益	38,472	42,897
販売費及び一般管理費		
販売手数料	613	697
荷造運搬費	1,383	1,597
広告宣伝費	821	1,133
貸倒引当金繰入額	0	11
役員報酬	259	381
給料及び手当	8,313	9,497
賞与	647	669
賞与引当金繰入額	779	735
役員賞与引当金繰入額	329	296
退職給付引当金繰入額	67	71
役員退職慰労引当金繰入額	6	4
福利厚生費	1,559	1,786
交際費	30	30
旅費及び交通費	373	409
租税公課	235	285
減価償却費	839	1,007
企画開発費	49	67
賃借料	10,739	12,065
リース料	284	264
水道光熱費	506	575
支払手数料	1,960	2,382
雑費	989	1,154
販売費及び一般管理費合計	30,789	35,101
営業利益	7,683	7,796
営業外収益		
受取利息	9	14
受取配当金	<sup>3</sup> 51	<sup>3</sup> 53
受取賃貸料	24	24
その他	50	29
営業外収益合計	135	122

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
営業外費用		
支払利息	58	72
その他	23	9
営業外費用合計	82	82
経常利益	7,737	7,836
特別利益		
固定資産売却益	18	-
特別利益合計	18	-
特別損失		
固定資産除却損	2 112	2 235
リース解約損	5	14
減損損失	4 129	4 205
関係会社株式評価損	39	50
関係会社整理損失引当金繰入額	-	286
抱合せ株式消滅差損	-	258
災害義援金等	92	-
災害による損失	26	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	388	-
特別損失合計	796	1,050
税引前当期純利益	6,959	6,785
法人税、住民税及び事業税	3,344	2,999
法人税等調整額	204	40
法人税等合計	3,139	2,958
当期純利益	3,819	3,827

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	3,181	3,181
当期末残高	3,181	3,181
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	3,379	3,379
当期末残高	3,379	3,379
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	-	0
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	3,379	3,379
当期変動額		
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	3,379	3,379
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	21	21
当期末残高	21	21
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	10,600	12,600
当期変動額		
別途積立金の積立	2,000	-
当期変動額合計	2,000	-
当期末残高	12,600	12,600
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	4,606	5,930
当期変動額		
剰余金の配当	494	659
当期純利益	3,819	3,827
別途積立金の積立	2,000	-
当期変動額合計	1,324	3,167
当期末残高	5,930	9,098



(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
利益剰余金合計		
当期首残高	15,227	18,552
当期変動額		
剰余金の配当	494	659
当期純利益	3,819	3,827
別途積立金の積立	-	-
当期変動額合計	3,324	3,167
当期末残高	18,552	21,719
自己株式		
当期首残高	1,142	1,143
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	1,143	1,143
株主資本合計		
当期首残高	20,645	23,969
当期変動額		
剰余金の配当	494	659
当期純利益	3,819	3,827
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	3,324	3,167
当期末残高	23,969	27,136
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1	21
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22	137
当期変動額合計	22	137
当期末残高	21	159
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	-	6
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6	49
当期変動額合計	6	49
当期末残高	6	42
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1	14

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	186
<b>当期変動額合計</b>	<b>15</b>	<b>186</b>
当期末残高	14	201
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	20,644	23,984
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	494	659
当期純利益	3,819	3,827
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	186
<b>当期変動額合計</b>	<b>3,340</b>	<b>3,354</b>
当期末残高	23,984	27,338

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ取引により生じる債権及び債務

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

4 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、建物(建物附属設備を除く)については定額法

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

平成21年2月28日以前に契約をした、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

5 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、当期の負担すべき支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、当期の負担すべき支給見込額を計上しております。

関係会社整理損失引当金

関係会社の整理に伴い、負担することとなる損失に備えるため、当該損失の見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

数理計算上の差異はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

#### 役員退職慰労引当金

役員の退職に備え、当社内規に基づく期末要支給額を計上しております。

### 6 ヘッジ会計の方法

#### ヘッジ会計の方法

為替予約については、繰延ヘッジ処理によっております。

#### ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)(ヘッジ対象)

為替予約 外貨建予定取引

#### ヘッジ方針

主に商品の輸入取引にかかる為替の変動リスクをヘッジする目的で為替予約取引を利用することとしており、3年を超える長期契約は行わない方針であります。

#### ヘッジの有効性評価の方法

為替予約取引については、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつヘッジ開始時及びその後も継続して為替変動が相殺されていることを確認することにより、有効性の評価を行っております。

### 7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

#### 【会計方針の変更】

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

当事業年度の貸借対照表日後に株式分割を行いました。前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

#### 【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用していません。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 (第40期)

建物139百万円、土地923百万円及び差入保証金7,023百万円は、長期借入金5,864百万円及び、1年内返済予定の長期借入金1,631百万円の担保に供しております。

(第41期)

建物55百万円、土地608百万円及び差入保証金7,526百万円は、長期借入金6,389百万円及び、1年内返済予定の長期借入金1,587百万円の担保に供しております。

(損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	第40期 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	第41期 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
	121百万円	154百万円

2 (第40期)

固定資産除却損の主なものは、建物除却損99百万円です。

(第41期)

固定資産除却損の主なものは、建物除却損202百万円です。

3 関係会社取引

	第40期 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	第41期 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
営業外収益 受取配当金	50百万円	50百万円

4 減損損失

第40期(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

当期において、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	金額(百万円)
店舗	建物	112
	リース資産	7
	その他	9

事業用資産については、管理会計上の区分を基礎とし原則として店舗毎に個別物件単位に基づきグループ化しております。

事業用資産のうち、収益性の低下している資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能額を零として評価しております。

第41期(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

当期において、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	金額(百万円)
店舗	建物	179
	リース資産	12
	その他	13

事業用資産については、管理会計上の区分を基礎とし原則として店舗毎に個別物件単位に基づきグループ化しております。

事業用資産のうち、収益性の低下している資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能額を零として評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

第40期(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	569	0		569

(変動理由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 0千株

第41期(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	569	0	0	569

(注) 当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、上記は当該分割前の株数で記載しております。

(変動理由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 0千株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買増しによる増加 0千株

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(イ)有形固定資産

主として、店舗内装設備であります。

(ロ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース開始日が平成21年2月28日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	第40期 (平成24年2月29日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
工具器具及び備品	665	486	42	136
ソフトウェア	19	15		4
合計	685	501	42	140

(単位：百万円)

	第41期 (平成25年2月28日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
工具器具及び備品	388	330	18	39
ソフトウェア	11	10		0
合計	399	340	18	39

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	第40期 (平成24年2月29日)	第41期 (平成25年2月28日)
1年内	105	43
1年超	45	
合計	151	43
リース資産減損勘定期末残高	12	3

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額

(単位：百万円)

	第40期 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	第41期 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
支払リース料	158	109
リース資産減損勘定の取崩額	28	10
減価償却費相当額	142	98
支払利息相当額	9	4

減価償却費相当額の算定方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法は、リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

第40期(平成24年 2月29日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	1,754	1,283	471
関連会社株式			
計	1,754	1,283	471

第41期(平成25年 2月28日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	1,754	1,634	119
関連会社株式			
計	1,754	1,634	119

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成24年 2月29日	平成25年 2月28日
子会社株式	230	180
関連会社株式	14	14
計	244	194



## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第40期 (平成24年2月29日)	第41期 (平成25年2月28日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	307百万円	279百万円
未払事業税	170	119
法定福利費	44	41
未払事業所税	13	15
商品評価損	29	12
関係会社整理損失引当金		109
その他	4	
繰延税金資産(流動)合計	569	577
繰延税金負債(流動)		
繰延ヘッジ損益		25
繰延税金資産(流動)純額	569	551
繰延税金資産(固定)		
役員退職慰労引当金	40	41
退職給付引当金	83	104
減価償却費	32	21
貸倒引当金	22	18
投資有価証券評価損	12	12
関係会社株式評価損	88	80
減損損失	97	101
資産除去債務	303	320
その他	9	8
繰延税金資産(固定)合計	690	710
繰延税金負債(固定)		
資産除去債務に対応する除去費用	153	145
その他有価証券評価差額金	11	88
繰延税金負債(固定)合計	165	233
繰延税金資産(固定)純額	524	476

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第40期 (平成24年2月29日)	第41期 (平成25年2月28日)
法定実効税率 (調整)	40.6%	40.6%
住民税均等割	1.4	1.5
役員賞与	2.1	1.8
受取配当金益金不算入	0.3	0.3
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	1.0	
その他	0.3	0.0
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	45.1	43.6

(企業結合等関係)

(第41期)

共通支配下の取引等

1 結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及びその他取引の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称：株式会社パル当社

事業の内容：衣料及び服飾雑貨の製造、販売

結合当事企業の名称：株式会社東洋産業商会

事業の内容：アクセサリー等の企画、販売

企業結合日

平成24年9月1日

企業結合の法的形式

当社を存続会社、株式会社東洋産業商会(当社の連結子会社)を消滅会社とするを吸収合併

結合後企業の名称

株式会社パル

その他取引の概要に関する事項

アクセサリー等の企画、販売を営む株式会社東洋産業商会を合併することにより、経営の効率化を図ることを目的としております。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上したもの

1 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を10年と見積り、割引率は1.2%～1.3%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

	第40期 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	第41期 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
期首残高(注)	716百万円	852百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	148	78
合併による増加		1
時の経過による調整額	8	9
資産除去債務の履行による減少額	21	41
期末残高	852	900

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月1日)を適用したことによる残高であります。

(1株当たり情報)

項目	第40期 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	第41期 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
1株当たり純資産額	1,090円35銭	1,242円84銭
1株当たり当期純利益	173円64銭	174円00銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当社は、平成25年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益は、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(会計方針の変更)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。この適用により、貸借対照表日後に行った株式分割は、前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前事業年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額は、以下のとおりです。

1株当たり純資産額	2,180円69銭
1株当たり当期純利益金額	347円27銭

3 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

項目	第40期 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	第41期 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(百万円)	23,984	27,338
普通株式に係る純資産額(百万円)	23,984	27,338
差額の主な内訳(百万円)		
普通株式の発行済株式数(株)	23,136,000	23,136,000
普通株式の自己株式数(株)	1,139,188	1,139,322
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	21,996,812	21,996,678

(2) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益

項目	第40期 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	第41期 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
損益計算書上の当期純利益(百万円)	3,819	3,827
普通株式に係る当期純利益(百万円)	3,819	3,827
普通株式の期中平均株式数(株)	21,996,978	21,996,804

(重要な後発事象)

(第41期)

当社は、平成25年1月7日開催の取締役会にて100%出資の連結子会社である株式会社T H R E A Dの吸収合併を決議し、平成25年3月1日付けにて吸収合併いたしました。

(1) 合併目的

本合併は、商品企画及び販売の統合により、経営の効率化並びに機動的な人材の配置及び活用を行うことを目的とするものであります。

(2) 合併期日(効力発生日)

平成25年3月1日

(3) 合併方式

当社を存続会社として株式会社T H R E A Dを吸収合併し、同社は解散いたしました。

(4) 合併による株式の割当

株式会社T H R E A Dは、当社の100%子会社であるため、本合併による株式の割当て及び金銭その他の財産の交付は行っておりません。

(5) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他 有価証券	(株)住友不動産	126,000
		(株)T'S	1,000
		その他(3銘柄)	13,577
		小計	140,577
計		140,577	615

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	7,049	1,235	773 (179)	7,511	2,826	675	4,684
車両運搬具	9			9	8	0	0
工具、器具 及び備品	19	22	10 (0)	30	17	4	13
土地	943			943			943
リース資産	1,008	387	39 (12)	1,357	463	241	893
有形固定資産計	9,031	1,645	823 (191)	9,852	3,315	922	6,536
無形固定資産							
商標権	25		8	17	15	2	2
電話加入権	17	0	0	17			17
リース資産	3	15		19	3	2	15
無形固定資産計	46	16	8	54	19	4	35
長期前払費用	333	148	47 (9)	433	161	81	272

- (注) 1 建物の増加の主なものは、店舗内装設備であります。  
2 建物の減少の主なものは、店舗内装設備であります。  
3 有形固定資産のリース資産の増加の主なものは、店舗什器であります。  
4 当期減少額のうち( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	64			11	52
賞与引当金	779	735	779		735
関係会社整理損失引当 金		286			286
役員賞与引当金	329	296	329		296
役員退職慰労引当金	113	4			117

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)の11百万円は回収可能性の見直による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	67
預金の種類	
当座預金	20,410
普通預金	6,613
外貨預金	1
小計	27,024
合計	27,092

ロ 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)ルミネ	219
イオンモール(株)	214
ららぽーとマネジメント(株)	165
(株)スタートトゥデイ	139
(株)アトレ	113
その他	2,094
合計	2,947

売掛金滞留状況

当期首売掛金残高	2,631百万円
当期売上高	78,548百万円
当期回収高	78,231百万円
当期末売掛金残高	2,947百万円
滞留期間	0.45カ月
(期末売掛金残高 / 月平均売上高)	
回収率	96.4%
(当期回収高 / (期首売掛金残高 + 当期売上高))	

(注) 金額は消費税等を含んでおります。



八 商品

区分	衣料(百万円)	雑貨(百万円)	合計(百万円)
商品	3,006	1,498	4,505

固定資産

イ 差入保証金

区分	金額(百万円)
店舗、倉庫保証金	8,897
事務所保証金	173
社宅保証金	51
その他	0
合計	9,123

流動負債

イ 支払手形

相手先	金額(百万円)	期日	金額(百万円)
興和紡(株)	286	平成25年3月	690
フォーシーズンデコスタイル(株)	73	平成25年4月	590
(株)ワイワイ	62	平成25年5月	228
(株)ハイドアウト	61	平成25年6月	10
三澤(株)	52		
その他	984		
合計	1,520	合計	1,520

ロ 買掛金

相手先	金額(百万円)
三菱商事ファッション(株)	4,381
豊田通商(株)	2,396
興和紡(株)	159
(株)ベティスミス	38
フォーシーズンデコスタイル(株)	36
その他	845
合計	7,859

固定負債

イ 長期借入金

借入先	期末残高(百万円)
(株)三井住友銀行	4,351( 806)
(株)三菱東京UFJ銀行	2,520( 474)
(株)みずほ銀行	1,104( 305)
合計	7,976(1,587)

(注) 期末残高の( )内の数字(内書)は、1年以内に返済する予定の長期借入金であります。

ロ 長期未払金

相手先	期末残高(百万円)
三井住友ファイナンス&リース(株)	1,367( 496)
東京センチュリーリース(株)	1,164( 450)
J A三井リース(株)	539( 156)
合計	3,071(1,102)

(注) 期末残高の( )内の数字(内書)は、1年以内に支払う予定の長期未払金であります。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日、2月末日
1単元の株式数	平成25年3月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、単元株式数は50株から100株に変更されています。
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。但し、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.palgroup.co.jp">http://www.palgroup.co.jp</a>
株主に対する特典	なし

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類 並びにその確認書	事業年度 (第40期)	自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日	平成24年5月30日 近畿財務局長に提出。
(2)	有価証券報告書の訂正 報告書及びその確認書	事業年度 (第39期)	自 平成22年3月1日 至 平成23年2月28日	平成24年5月18日 近畿財務局長に提出。
(3)	内部統制報告書 及びその添付書類			平成24年5月30日 近畿財務局長に提出。
(4)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2 項第9号の2（株主総会における議決権行使の 結果）の規定に基づく臨時報告書		平成24年6月1日 近畿財務局長に提出。
(5)	四半期報告書 及びその確認書	(第41期第1四半期)	自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日	平成24年7月13日 近畿財務局長に提出。
		(第41期第2四半期)	自 平成24年6月1日 至 平成24年8月31日	平成24年10月15日 近畿財務局長に提出。
		(第41期第3四半期)	自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日	平成25年1月11日 近畿財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 5月30日

株式会社パル  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡 沼 照 夫

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 横 井 康

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 羽 津 隆 弘

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パルの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パル及び連結子会社の平成25年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社パルの平成25年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社パルが平成25年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成25年 5月30日

株式会社パル  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 渡 沼 照 夫
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 横 井 康
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 羽 津 隆 弘

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パルの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの第41期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パルの平成25年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。